

履修案内

令和 7 年度（2025 年度）入学者用

公立小松大学

目次

公立小松大学憲章	1
I 教育課程の編成	3
(1) 公立小松大学の教育課程	
(2) 学年・学期	
(3) 授業時限	
(4) 単位	
(5) 授業時間割	
(6) 休講・補講	
(7) 出席日数	
(8) 授業科目	
(9) 成績評価について	
(10) 卒業に必要な単位	
(11) グレード・ポイント・アベレージ (GPA) 制度	
(12) 履修科目の年間登録上限 (CAP 制) の導入	
II 共通教育科目	8
① 導入科目	
② 一般科目	
③ 英語科目	
④ その他外国語科目	
III 各学部学科における教育課程と専門教育科目	12
(1) 生産システム科学部生産システム科学科	12
① 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	
② 実施体制について	
③ コース配属について	
④ 開講科目について	
⑤ 卒業要件	
⑥ 教育課程表	
(2) 保健医療学部看護学科	19
① 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	
② 実施体制について	
③ 保健師養成課程の選択について	
④ 開講科目について	
⑤ 臨地実習の履修要件	
⑥ 卒業要件	
⑦ 教育課程表	
(3) 保健医療学部臨床工学科	29
① 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	
② 実施体制について	
③ 開講科目について	
④ 臨床実習の履修要件	
⑤ 卒業要件	
⑥ 教育課程表	

(4) 国際文化交流学部国際文化交流学科	36
① 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）	
② 実施体制について	
③ コースの選択について	
④ 英語プログラム	
⑤ 開講科目について	
⑥ 卒業要件	
⑦ 教育課程表	

公立小松大学憲章

前文

公立小松大学は2018年、白山麓から日本海に至る豊かな自然と、産業・文化・国際・健康・教育都市としての伝統を背景に、小松市民の総意によって設立された。

公立小松大学は、1988年開学の小松短期大学と1995年開校のこまつ看護学校にゆかりをもつ「生産システム科学部 生産システム科学科」と「保健医療学部 看護学科・臨床工学科」、および「国際文化交流学部 国際文化交流学科」の3学部4学科からなる。

公立小松大学は、市民の負託に応え、これらの学問領域と関連する分野における知の修得、創造、還元、循環をとおして、地域と世界の未来を照らす学術の府としての役割をはたす。公立小松大学は、本学にまなぶ学生とはたらく教職員のすべてが拠って立つ理念を自覚し、掲げる目標の実現に向けて力を合わせてゆくため、ここに公立小松大学憲章を定める。

基本理念

公立小松大学は、地域における教育研究の中核的拠点として、つぎの基本理念を掲げる。

- (1) 地域と世界で活躍する専門性に優れ人間性豊かな人材を育成する。
- (2) 持続可能な社会のため、生産システムや保健医療の科学技術を革新し、異文化交流を推進する。
- (3) 地域に貢献し、市民に支えられ、活力と幸せに富む地域を共創する。

公立小松大学は、この基本理念にもとづき、持続可能な地域・国際社会の発展に寄与する知の修得・創造・還元・循環の拠点形成をめざす。

目標

知の修得：教育

公立小松大学は、確かな基礎知識と高度な専門能力の修得に向けた主体的なまなびの場をつくり、人間・社会・歴史・自然と科学技術を総合的に捉える分野横断的な教育と、人類・地球も視野に入れた実践的な地域課題解決型学修をおこなう。これにより、自律性に富み、グローバルにもローカルにも活躍しうるアクティヴ・ラーナーを育てる。

知の創造：研究

自由な発想に基づいて真理を探究し、新しい知を創造することは、大学の使命である。公立小松大学は、特色ある基礎研究、応用研究、共同研究、学際研究、分野融合研究に取り組み、発明、発見と新たな学術分野の開拓に努めるとともに、その成果を世界に発信する。

知の還元：地域貢献

公立小松大学は、地域の企業、医療機関、教育機関などとの多様な連携を構築し、研究・教育の成果および大学がもつ知的資源を社会に還元する。まちなかキャンパスづくり、健康福祉支援、ブランディング、リカレント教育などをととして地域社会の活性化に貢献する。

知の循環：国際交流

公立小松大学は、海外の大学等との共同研究、教職員・学生交流、シンポジウム・セミナー等開催を積極的におこない、世界と地域の懸け橋としての役割をはたすとともに、世界に通用する人材の育成と循環および人類共通課題の解決に貢献する。

知の基盤：人権の尊重と社会的責任

上記の活動を支える知の基盤として、公立小松大学の構成員は、全人的素養を身に付け、基本的人権と倫理、社会マナーを重んじ、法令等の遵守に務め、社会から信頼される大学づくりをおこなう。

公立小松大学は、健全で透明性のある経営、自己点検と改善をととして、質の高い知の修得・創造・還元・循環を展開し、市民や国民から負託された責任をはたす。

I 教育課程の編成

(1) 公立小松大学の教育課程

大学の教育は、基本的に教養教育（専門を超えた幅広い知識や知的技術・批判力・総合的視野などを身につけます）と専門教育（専攻領域の知識・方法等を身につけます）に大きく区分されています。

(2) 学年・学期

大学の1年（年度）は、4月1日に始まり、翌年の3月31日に終わります。この期間を2つに分けたものが学期で、前期は4月1日～9月30日、後期は10月1日～翌年3月31日となります。

(3) 授業時限

- ① 授業は、月曜日から金曜日まで開講され、土曜日、日曜日、祝日は（補講及び集中講義を除き）原則開講しません。
- ② 授業は実験・実習を除き、1時限単位で行われ、1時限は90分で1コマと呼びます。
- ③ 1日の授業は5時限制で、各時限の始業・終業の時刻は、次のとおりです。

時限	授業時間帯
1時限	8:45 ～ 10:15
2時限	10:30 ～ 12:00
3時限	13:00 ～ 14:30
4時限	14:45 ～ 16:15
5時限	16:30 ～ 18:00

※栗津キャンパスでは1時限 9:00～10:30、2時限 10:40～12:10 となります。

(4) 単位

授業はすべて単位制であり、授業科目の履修と所定の授業外学修をすれば、試験・レポート等の成績評価を経て、単位が認定されます。なお、1単位の履修に必要な学習時間は、授業時間（講義、演習、実習、実験など）及び授業時間外（自習時間）を合わせて「45時間」と規定されています。

単位の計算方法は次のとおりです。

- ① 講義及び演習については、15時間から30時間までの授業をもって1単位とします。
- ② 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの時間をもって1単位とします。

(5) 授業時間割

毎年度の授業時間割は、別途発表される「授業時間割表」に掲載しています。

授業時間割表に掲載されている開講時限・講義室等に、変更や訂正がある場合は、掲示します。

(6) 休講・補講

本学の公式行事等や、担当教員の都合により授業ができなくなった場合は、「休講」として掲示します。

また、休講となった授業の補充として「補講」を行う場合も同様に掲示します。

なお、台風・大雪などの非常時の場合、オンライン授業の実施、あるいは休講措置がとられ、補講を行うことがあります。補講は通常講義とは異なり、土曜日、日曜日、祝日などに行うこともあります。その場合には、UNIVERSAL PASSPORT（公立小松大学ポータルサイト）に掲載されます。また、台風、大雪などで警報が出たときには、必ず公立小松大学ポータルサイトを確認するようにしてください。

(7) 出席日数

学生にとって、授業への出席は義務であり、本来は全授業時間に出席しなければなりません。単位を修得するためには、原則として、当該科目の授業時間数の3分の2以上の出席が必要です。

なお、課外活動や冠婚葬祭などのやむを得ず欠席しなければならない場合でも、書面で欠席を届け出たり、出席扱いを願い出たりする制度はありません。

また、遅刻も厳禁です。授業ごとに異なりますが、一定時間を超えた遅刻は出席として認められないことがあります。

(8) 授業科目

本学では、共通教育科目と専門教育科目が並行して開講されます。原則として2年前期までは主として中央キャンパス及び小松運動公園などの施設で開講されます。

共通教育科目は、全学年を通じて開講されますが、学年が進むにつれて専門教育科目と重なる時間帯が増えてきます。

したがって、共通教育科目の履修は、履修上の規則及び時間割表を十分理解した上で、しっかりした履修方針と年次計画を立てることが必要です。

各学科の学生が受講できる授業科目については、本冊子「Ⅲ 各学部学科における教育課程と専門教育科目」に記載されている「教育課程表」に示されています。また、授業科目ごとの詳細情報は公立小松大学ポータルサイトの「シラバス照会」で確認してください。

(9) 成績評価について

学生の成績は、シラバスで示された到達目標に対する学修到達度によって評価されます。成績の評価は、「S」、「A」、「B」、「C」又は「D」で判定し、「S」、「A」、「B」及び「C」を合格とし、「D」を不合格とします。なお、「D」の判定は、「不可」の評語をもって表示します。評価基準は以下のとおりです。

評価(評語)	評価基準(点数)	評価の内容
S	100 点～90 点以上	学修到達度が特に優秀な水準で到達目標に達している。
A	90 点未満～80 点以上	学修到達度が優秀な水準で到達目標に達している。
B	80 点未満～70 点以上	学修到達度が優良な水準で到達目標に達している。
C	70 点未満～60 点以上	学修到達度が到達目標に達している。
D(不可)	60 点未満	学修到達度が到達目標に達していない。

※ただし、授業科目又は履修形態等によっては、評価を「合」又は「認定」の評語とすることがある。

(10) 卒業に必要な単位

卒業に必要な単位数は以下のとおりです。学科および選択するコースごとに履修や単位修得上の要件があります(詳細は「Ⅲ 各学部学科における教育課程と専門教育科目」を参照してください)。

学科名		共通教育 科目	専門基礎 科目	専門科目	卒業単位数
生産システム科学科		37	20	67	124 単位 以上
看護学科	看護師課程	31	24	72	127 単位 以上
	保健師課程 ※選択制	31	24	90	145 単位 以上
臨床工学科		31	47	55	133 単位 以上
国際文化交流学科		37	14	76	127 単位 以上

(11) グレード・ポイント・アベレージ (GPA) 制度

グレード・ポイント・アベレージ (GPA) 制度とは、欧米の大学で一般的な成績評価方法であり、学生一人ひとりの履修科目の成績評価をグレード・ポイント (GP) に置きかえた平均を数値により表すものです。

成績の各評価に与えられる GP は、以下のとおり定めています。

評価（評語）	グレード・ポイント (GP)
S	4
A	3
B	2
C	1
不可	0
保留※	0
合	対象外
認定	対象外

※「保留」は当該学期以降に評価変更された際、その評価の GP となる。

・GPA の種類と算出方法

「GPA」には、当該学期における GPA（以下「学期 GPA」という）、当該年度における GPA（以下「年度 GPA」という）及び全在学期間における GPA（以下「通算 GPA」という）があります。

【学期 GPA を算出する計算式】

$$\text{学期 GPA} = \frac{(\text{当該学期に評価を受けた各授業科目で得た GP} \times \text{当該授業科目の単位数}) \text{の合計}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計}}$$

【年度 GPA を算出する計算式】

$$\text{年度 GPA} = \frac{(\text{当該年度に評価を受けた各授業科目で得た GP} \times \text{当該授業科目の単位数}) \text{の合計}}{\text{当該年度に評価を受けた各授業科目の単位数の合計}}$$

【通算 GPA を算出する計算式】

$$\text{通算 GPA} = \frac{(\text{各学期に評価を受けた各授業科目で得た GP} \times \text{当該授業科目の単位数}) \text{の合計の総和}}{(\text{これまでに評価を受けた各授業科目の単位数の合計}) \text{の総和}}$$

※不可及び放棄の科目を再履修した場合には、単位数を重複して加える

(12) 履修科目の年間登録上限（CAP 制）の導入

本学は、学問領域の異なる 3 学部 4 学科を設置し、各学科の養成する人材像に掲げる知識、能力の修得を目指します。学生の負担、自主学習時間、各学科の教育の性質・特色を考慮した質の高い学士課程教育の実現のため、各学部で履修科目の年間登録の上限（CAP 制）を設けていますので、前期と後期の履修科目数のバランスを考えて履修登録

してください。なお、年間登録科目の上限を越えて履修を希望する学生がいた場合、CAP 制の例外を適用するかどうかについては、各学部で定めることとします。例外を適用する場合は、前年の年度 GPA 閾値や各学部で定める規定により、適用の可否を決定します。

i. 生産システム科学部

本学部の履修科目の登録の上限は、各学期 26 単位とします。ただし、この上限を超えて履修を希望する学生がいた場合は、その者の前学期の学期 GPA が 2.5 以上であることを条件として、学部が特に認めた場合に限って、上限を超えて履修することが出来るものとします。

ii. 保健医療学部

本学部の履修科目の登録の上限は、年間 52 単位とします。ただし、この上限を超えて履修を希望する学生がいた場合は、その者の前学期の学期 GPA が 2.5 以上であることを条件として、学部（学科）が特に認めた場合に限って、上限を超えて履修することが出来るものとします。

iii. 国際文化交流学部

本学部については、履修科目の登録上限を各学期 24 単位とします。ただし、学外実践科目はこの上限の対象から除外します。

II 共通教育科目

本学では、教養教育を「共通教育科目」と称し、教育の目的別に「導入科目」「一般科目」「英語科目」「その他外国語科目」の4つに分類し、中央教育審議会答申「新しい時代における教養教育の在り方について」（平成14年2月21日）の中で大学の教養教育に求められている、専門分野の枠を超えて共通に求められる知識や思考法などの知的な技法の獲得や、人間としての在り方や生き方に関する深い洞察、現実を正しく理解する力の涵養を目指しています。

なお、それぞれの学部学科の学生が修得すべき共通教育科目の内訳が決められています。卒業のためには、内訳に示された各科目区分の単位修得の要件（単位数・指定科目など）を満たし、さらに修得した全共通教育科目の単位数の合計が「共通教育科目合計」以上であることが必要です。

① 導入科目

公立小松大学での学びをスタートするにあたり、導入科目は全学部必修とし、自らの学びが将来の進路にどう繋がるかをイメージし、学修意欲と知的好奇心を喚起することを目的とします。高校までの教育とは異なり、大学教育では自分で考え、学び、結果を導く手法にシフトするため、学修方法に戸惑う学生が多いです。

そのため、1年次前期に開講する「キャリアデザイン・チーム論」では、キャリアデザインを展望しながら、組織や社会集団の一員として貢献していくための知識とノウハウを学びます。「アカデミック・スキルズ」では、ノートの取り方、資料収集法・整理法、レポート執筆等のノウハウや学生が自らの適性を見極めます。

1年次後期には各学部の教員が専門分野に沿ったテーマを学生に提供し、検討させる「基礎ゼミ」を開講します。このゼミによって、課題解決のための思考力、判断力、コミュニケーション力、そして主体的に学ぶ姿勢を育成します。また、「情報処理基礎」を受講することで、情報収集や資料作成を効率的に進めるためのパソコン、ネットワーク関係の基礎知識を修得させます。

そのほか、本学の理念において、地域に貢献できる人材育成を掲げています。卒業後のフィールドとなる小松市、南加賀地域に関する歴史、文化等について学ぶ講義「南加賀の歴史と文化」を通じて、自らが活躍するフィールドとなる南加賀地域の「人」や「社会」の成り立ちとその地域性についての理解を深めます。

【履修形式】

全学部5科目8単位を必修とします。

＜必修科目＞

キャリアデザイン・チーム論、アカデミック・スキルズ、基礎ゼミ、情報処理基礎、南加賀の歴史と文化

② 一般科目

一般科目は、人間力、社会力、科学力、健康と体力の4つの領域に分類し、次のとおり幅広い教養と豊かな人間性を育成します。

ア. 人間力

人間力領域では、人間の思考や行動、文化について学ぶ人文系科目を配置し、コミュニケーション能力、表現力の養成を通じて豊かな人間性の育成をめざします。また、地域のグローバル化に焦点を当て、異なる言語、文化、価値観を持つ人々への理解を深める科目を配置することで、国際的視野を育みます。

【履修形式】

全学部6単位以上を選択必修とします。

＜選択科目＞

哲学、心理学、人間の発達と心、日本の伝統芸能、人文地理学、文化人類学、医療と文化、文章表現法、言葉と文化

イ. 社会力

社会力領域では、政治、経済、法律など社会のシステムに関する基礎知識を学ぶ科目を配置し、成熟した社会を構成する一員としての倫理観と社会全体を広く見渡せる視野を養います。

【履修形式】

生産システム科学部・国際文化交流学部は3科目6単位以上を、保健医療学部は2科目4単位以上を選択必修とします。

＜選択科目＞

日本産業史、自然資源と環境問題、経済学、政治学、社会学、公共政策論、社会福祉論、日本国憲法

ウ. 科学力

科学力領域では、科学技術の発展による生命、環境、エネルギーの進歩や高度情報化に関する科目を配置し、社会の発展がもたらす恩恵と今後の課題について、未来の社会のためのより良い選択肢を科学的知見に立って検証・分析を行うことで、課題解決のための合理的、論理的思考力を養成します。

【履修形式】

全学部2科目4単位以上を選択必修とします。

＜選択科目＞

データ科学と社会、情報処理応用A、情報処理応用B、クリティカルシンキング、統計学、現代科学技術論、教養としての物理※、教養としての数学※
※生産システム科学部学生は、「教養としての物理」「教養としての数学」を履修できません。

エ. 健康と体力

健康と体力領域では、健康増進と体力の維持・向上に関する基礎知識、方法を学ぶことで、学生の健康に対する理解を深めると同時に、生涯を通じてスポーツや健康づくりを楽しむための意識を育み、スポーツ科目では生涯を通じて取り組むことができる種目の他、団体競技を中心に編成し、協調性やコミュニケーション能力の向上に努めます。

【履修形式】

全学部 1 科目 1 単位以上を選択必修とします。

<選択科目>

健康と体の科学、スポーツ演習（バレーボール）、スポーツ演習（硬式テニス）、スポーツ演習（フットサル）、スポーツ演習（卓球）、スポーツ演習（バドミントン）

③ 英語科目

英語は、母語の異なる人々の間をつなぐ国際的共通語として、最も中心的な役割を果たしている言語です。国際連合、経済協力開発機構 (OECD) 及び世界貿易機関 (WTO) などの様々な国際機関において、英語は公用語に位置付けられているほか、国際的なビジネスでの利用、海外の文献やメディアからの情報の入手などの様々な領域において、英語は利用されています。我が国における国際化が、都市圏・地方を問わず急激に進む中、英語によるコミュニケーション力は、グローバルに情報を入手し、考えを伝え、ビジネスを行い、友人・知人をつくり、共に活動を行う際に求められる基本的な能力となります。したがって、英語の実践的運用能力を確実に身につけることを目的とし、1 年次に全学部必修科目として開講します。

【履修形式】

全学部「英語Ⅰa」「英語Ⅰb」「英語Ⅱa」「英語Ⅱb」の 4 科目 8 単位を必修とします。国際文化交流学科は選択科目「英語Ⅲ」を必修科目とします。

<必修科目>

英語Ⅰa、英語Ⅰb、英語Ⅱa、英語Ⅱb

<選択科目>

英語Ⅲ、英会話Ⅰ、英会話Ⅱ、実用英語 A、実用英語 B

④ その他外国語科目

国際社会における日本の地位は、世界中の国々との相互文化理解に基づく人的交流、経済関係などを抜きには考えられません。この関係を仲立ちするのが「言語」です。本学では日本語、英語以外の言語科目として、中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語を選択科目として設け、基本的な文法とコミュニケーション力の修得を目指します。第 2 外国語を学ぶことは、それらを母国語とする国々への理解を深めると同時に、母国語である日本語、そして英語との違いと特徴を再発見することに繋がり、より

効果的に語学力の向上を促すものです。

【履修形式】

全学部ともに選択科目とします。

＜選択科目＞

中国語Ⅰ、中国語Ⅱ、韓国語Ⅰ、韓国語Ⅱ、フランス語Ⅰ、フランス語Ⅱ、ドイツ語Ⅰ、ドイツ語Ⅱ、スペイン語Ⅰ、スペイン語Ⅱ

養護教諭二種免許状の取得について

保健師免許を有する者が、都道府県教育委員会に養護教諭二種免許状を申請する場合、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目の4科目8単位を修得しておかなければなりません。

「日本国憲法 2 単位」「一般科目（健康と体力）から 2 単位」「英語科目から 2 単位」「情報処理基礎 2 単位」の合計 8 単位が必要です。

Ⅲ 各学部学科における教育課程と専門教育科目

(1) 生産システム科学部生産システム科学科

① 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

現代社会の喫緊の課題である持続可能な社会システムを実現するためにも、ものづくり技術の基幹である機械工学と、電気・電子・情報工学の諸技術を有機的かつ体系的に修得することが求められます。本学科の学生には、これらの諸技術を多彩に運用し、環境と社会に調和する新しい生産システム構築に向けて、地域社会と世界の持続的発展に貢献できる人材を育成するためのカリキュラム構成とします。

- 工学や科学の基礎となる数学・物理学の応用力を修得する
- 機械工学、電気・電子工学、情報工学を有機的かつ体系的に修得する
- 諸技術を多彩に運用し、環境と社会に調和する新しい生産システム構築に向けて、地域社会と世界の持続的発展のための課題探求能力を修得する
- 地域社会と世界の持続的発展のためのコミュニケーション能力を修得する

成績評価は、各科目の到達目標に基づいて、厳格に行う。各科目の学修成果は、定期試験、中間試験、レポート、発表等で評価することとし、その評価方法の詳細については、授業内容の詳細とあわせてシラバスに記載する。科目によっては、実習先等の成績を参考に成績評価を行うことがある。

② 実施体制について

本学科では、機械・電気・電子・情報と従来の工学分野を幅広く学ぶため、本学科における工学基礎教育のうち、「材料力学及び演習」「工業熱力学及び演習」「流れ学及び演習」「電気回路及び演習」「振動工学及び演習」では、科目名のとおり、講義と演習を1つの科目に織り込み、「講義⇒演習⇒講義」と交互に行うことで、専門知識を効率的に修得します。

「機械設計製図Ⅰ」「機械設計製図Ⅱ」は、ドラフタやコンピュータの実技操作により手書き製図、CAD製図に取り組みます。「機械電気工学実験Ⅰ」「機械電気工学実験Ⅱ」では、各班に別れ、設定したテーマに関する実験について班ごとにローテーションで取り組みます。「機械工作実習」では、各班に別れて設定したテーマに取り組みます。フライス盤、溶接機といった危険度の高い各種工作機械を使用する実習には、教職員を配置し、学生の安全に配慮して実習に取り組みます。

卒業研究は、演習形式とし、全教員が担当し、教員1名あたり少人数の学生を受け持ち、学生1名又は複数名に異なるテーマを与え、3年後期終了時点までに修得した知識、技術を活かして取り組みます。研究結果及び成果を卒業論文としてまとめ、卒業研究発表会や各種学会等で発表を行います。

③ コース配属について

2 年次前期終了時点で、学生は生産機械コース、知能機械コースのいずれかを選択し、各コースにおける専門教育に移行します。ただし、卒業要件の補足（ウ）に記載されたコースの配属条件を満たさなければなりません。

コースの配属については、学生の志望動機や適性を考慮して決定しますが、一方のコースに著しく人数が偏った場合は、本人の学業成績等により履修指導を行い、調整を行います。

いずれのコースにおいても、技術者としての実践能力を高めるための実験・実習科目、地元企業における学外体験学習、課題探求能力、英語能力を養成するためのゼミナールや技術英語等を開講し、アクティブラーニングを駆使して学習効果を高めます。

④ 開講科目について

ものづくりの設計・開発においては、現代社会が直面している 2 つの大きな問題、すなわち地球環境の保全と高度情報化社会への対応が喫緊の課題となっております。これら現代社会が抱える問題を解決し、未来のモノづくりシステムを創造して行くためには、これまでの機械工学のみの生産システムでは困難であるため、本学科の教育課程では、機械工学、電気・電子工学、情報工学に関する基礎を学んだ後、実験・実習科目を通して、それらの知識を実体験することで理解を深め、さらに、PBL 科目で、それらの知識を実際に運用して課題解決に結びつけるものとなっています。この一連の学修体験を通して、3 つの学問領域で学んだ基礎知識を実際に使える生きた知識と技術へとつなげていきます。

ア. 専門基礎科目

1 年次から 2 年次において、機械系技術者として基礎となる振動工学、材料力学、工業熱力学、流れ学、さらに電気・電子・情報工学の基礎である電気回路、プログラミングについて基礎力を身につけます。また、講義内容と課題解決に向けた考え方を結びつけるため、講義と演習を組み合わせた科目を配置しています。アクティブラーニングを授業の中に取り入れ、講義を踏まえて演習問題を解き、グループで討議を行うまでの一連の流れを通じて、課題解決力とともに、技術者に求められる協調性、説明力、思考力についての能力を養成していきます。これらの科目は、これから取り組む本学科の専門教育の基幹をなすものであり、全科目必修とします。

【履修形式】

全 10 科目 20 単位を必修とします。

<必修科目>

基礎数学 A、基礎数学 B、応用物理学、工業力学、プログラミングⅠ、材料力学及び演習、工業熱力学及び演習、電気回路及び演習、流れ学及び演習、振動工学及び演習

イ. 専門共通科目

生産機械コース、知能機械コースの2年次後期及び3年次において、専門基礎科目で学んだ知識を具体的な技術に結びつけるための科目を配置します。生産システム科学のための課題探求や問題解決能力を高めるため、3年次後期に課題探求プロジェクトを開講し、これまでに授業で習得した機械、電気・電子、情報工学の基礎知識を活用し、指導教員の下で、自ら提案する特定の課題に取り組み、設計プロセス全体の方法論、あるいは実施計画、装置・ソフトウェアの作製、実験・計算、整理などの方法論について総合的に体験します。現代のものづくりのフィールドが海外に幅広く展開されているため、4年次前期には外国語（英語）における語学力、表現力を育成するために課題研究ゼミナールを開講します。卒業研究では、これらの科目を通じて修得したノウハウにより、地域、そして世界が抱える生産システムに関する課題をテーマに、自らの考えをまとめ、各種学会で発表、議論できる能力を育てます。なお、「課題探求プロジェクト」、「課題研究ゼミナール」、「卒業研究」は全学生必修科目とし、「学外技術体験実習A」又は「学外技術体験実習B」のいずれかを選択必修とします。

【履修形式】

16科目34単位を必修とし、選択科目の「学外技術体験実習A」、「学外技術体験実習B」のいずれかを選択必修とします。

＜必修科目＞

技術者倫理、技術英語Ⅰ、機械設計製図Ⅰ、機械要素設計、生産加工学、技術英語Ⅱ、機械工作実習、機械電気工学実験Ⅰ、電気制御工学、数値解析、生産技術、課題探求プロジェクト、技術英語Ⅲ、機械電気工学実験Ⅱ、課題研究ゼミナール、卒業研究

＜選択科目＞

学外技術体験実習A、学外技術体験実習B

ウ. 専門選択科目

専門選択科目は選択科目とし、専門基礎科目と専門共通科目で修得した知識、能力とあわせて、学生が選択した専門分野の知識をより深めることを目的として、2、3年次で履修すべき標準的科目を配置します。

ここでは、基礎的な力学系科目が機械の設計、ものづくり、及び環境評価において、実際にどのように応用されているかを学び、実験・実習を通して実際に体験します。加えて、IoTなどの言葉に代表される将来のものづくりシステムの要である電気・情報工学系の基礎と、電気・通信工学のハード的分野とプログラミングなどの情報工学に関するソフト的分野の両方の科目を修得できます。

具体的には、機械材料、機械加工、再生可能エネルギー、環境工学を中心とする機械工学に関する科目と制御工学、人工知能、通信技術を中心とする電気・情報工学に関する科目を配置し、段階的に教育を実践していきます。

なお、2年次前期までに開講される「化学入門」「工業数学A」「工業数学B」「応用数

学」「統計・確率論」「エレクトロニクス概論」「プログラミングⅡ」は、2年次前期終了時に選択する生産機械コース、知能機械コースいずれにおいても基幹科目に位置づけられるものであり、各科目の修得を推奨します。また、2年次後期の「機械加工学」、3年次前期の「地球環境と環境流体」「機械設計製図Ⅱ」「環境適合技術論」は、生産機械コースではコース必修科目とし、ものづくりの加工技術と環境に優しいものづくりを実現するために必要となる知識や技術、そしてこれらを実現するための機械制御技術について学びます。また、知能機械コースでは、2年次後期の「情報科学Ⅰ」、3年次前期の「計算機科学」「人工知能Ⅰ」、3年次後期の「センサと通信」4科目8単位をコース必修科目とし、ロボットや機械の制御方法や効率的に機能するソフトウェアの構築方法をはじめ、高度情報化社会到来を予知した、機械システムや生産システム構築のための基礎知識を学びます。

ものづくりの仕組みを総合的に理解するためにも、コースを問わず、これらの機械工学、電気・電子工学、情報工学に関する知識や技術を幅広く修得させることで、多角的な視点からものづくりを検証し、理解できる能力を養い、本学科が掲げる人材像やディプロマ・ポリシーを達成します。

【履修形式】

- 生産機械コース選択者は、「機械加工学」「地球環境と環境流体」「機械設計製図Ⅱ」「環境適合技術論」の4科目8単位をコース必修科目とし、その他の選択科目22科目中12科目24単位以上を選択します。
- 知能機械コース選択者は、「情報科学Ⅰ」「計算機科学」「人工知能Ⅰ」「センサと通信」の4科目8単位をコース必修科目とし、その他の選択科目22科目中12科目24単位以上を選択します。

＜選択科目＞

化学入門、工業数学A、応用数学、工業数学B、統計・確率論、エレクトロニクス概論、プログラミングⅡ、機械加工学、機械材料学、応用電磁気学、情報科学Ⅰ、地球環境と環境流体、機械設計製図Ⅱ、環境適合技術論、電子回路、計算機科学、人工知能Ⅰ、資源有効利用学、電気機器工学、情報科学Ⅱ、人工知能Ⅱ、データマイニング、ロボット機構学、エネルギー資源と開発、センサと通信、インテリジェント生産システム

⑤ 卒業要件

生産システム科学部生産システム科学科の卒業要件単位数は以下のとおりです。

科 目 区 分			卒業要件単位数		
			必修科目	選択科目	合 計
共通教育科目	導入科目		8 単位	—	37 単位 以上
	一般科目	人間力	—	6 単位以上	
		社会力	—	6 単位以上	
		科学力	—	4 単位以上	
		健康と体力	—	1 単位以上	
	英語科目		8 単位	—	
	その他外国語科目		—	—	
	上記で履修した科目以外		—	4 単位以上	
専門基礎科目			20 単位	—	20 単位
専門科目	専門共通科目		34 単位	1 単位以上	67 単位 以上
	専門選択科目		—	32 単位以上	
卒業要件単位数			124 単位以上		

<補足>

- (ア) 共通教育科目について、「導入科目」から「その他外国語科目」の区分で修得した単位において、各区分の必要単位数を超える単位数については、「上記で履修した共通教育科目以外」の区分の必要単位数とします。
- (イ) 専門選択科目について、生産機械コース選択者は「機械加工学」「地球環境と環境流体」「機械設計製図Ⅱ」「環境適合技術論」の4科目8単位を、知能機械コース選択者は「情報科学Ⅰ」「計算機科学」「人工知能Ⅰ」「センサと通信」の4科目8単位をコース必修科目とします。
- (ウ) コースの配属条件として、卒業要件に科目区分ごとに定める修得すべき単位数を満たす共通教育科目 37 単位以上、教育課程表の専門基礎科目 16 単位、専門選択科目 2 科目 4 単位以上を含む合計 61 単位以上を修得しなければならない。ただし、2 年後期以降に配当された科目の単位はこれに含めない。コースに配属されていない者は、2 年後期までに配当されている科目しか履修できない。
- (エ) 卒業研究および課題研究ゼミナールの履修条件として、卒業要件の科目区分ごとに定める修得すべき単位数を満たす共通教育科目 37 単位以上、教育課程表の専門基礎科目 20 単位、専門共通科目 25 単位以上、専門選択科目 30 単位以上（コース必修科目 8 単位、選択科目 22 単位以上）を含む合計 112 単位以上を修得しなければならない。ただし、4 年前期以降に配当された科目の単位はこれに含めない。

Ⅲ 各学部学科における教育課程と専門教育科目
(1) 生産システム科学部生産システム科学科

⑥ 教育課程表

科目区分		授業科目の名称	単位数		授業形態			配当年次								卒業要件 及び 履修方法	
			必修	選択	講義	演習	実験 実習	1年次		2年次		3年次		4年次			
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
共通教育科目	導入科目	キャリアデザイン・チーム論	1		○			●								必修 8単位	計37単位以上
		アカデミック・スキルズ	1		○			●									
		基礎ゼミ	2			○			●								
		情報処理基礎	2		○			●									
		南加賀の歴史と文化	2		○				●								
		小計（5科目）	8	0													
	一般科目 （人間力）	哲学		2	○			●								6単位 以上	
		心理学		2	○			●									
		人間の発達と心		2	○			●									
		日本の伝統芸能		2	○			●									
		人文地理学		2	○				●								
		文化人類学		2	○				●								
		医療と文化		2	○				●								
		文章表現法		2	○				●								
		言葉と文化		2	○				●								
		小計（9科目）	0	18													
	一般科目 （社会力）	日本産業史		2	○			●								6単位 以上	
		自然資源と環境問題		2	○			●									
		経済学		2	○			●									
		政治学		2	○				●								
		社会学		2	○				●								
		公共政策論		2	○				●								
		社会福祉論		2	○				●								
	日本国憲法		2	○				●									
		小計（8科目）	0	16													
	（科学力） 一般科目	データ科学と社会		2	○				●							4単位 以上	
		情報処理応用A		2	○				●								
		情報処理応用B		2	○				●								
		クリティカルシンキング		2	○				●								
		統計学		2	○				●								
		現代科学技術論		2	○			●									
		小計（6科目）	0	12													
	（健康と体力） 一般科目	健康と体の科学		2	○			●								1単位 以上	
		スポーツ演習（バレーボール）		1		○		●	●								
		スポーツ演習（硬式テニス）		1		○		●									
		スポーツ演習（フットサル）		1		○		●									
		スポーツ演習（卓球）		1		○			●								
		スポーツ演習（バドミントン）		1		○		●	●								
		小計（6科目）	0	7													
	英語科目	英語Ⅰa		2		○			●							8単位 以上	
		英語Ⅰb		2		○			●								
		英語Ⅱa		2		○				●							
		英語Ⅱb		2		○				●							
		英語Ⅲ		2	○					●							
		英会話Ⅰ		2		○				●							
		英会話Ⅱ		2		○				●							
		実用英語A		2	○			●									
		実用英語B		2	○				●								
		小計（9科目）	8	10													
	その他外国語科目	中国語Ⅰ		2	○			●								－	
		中国語Ⅱ		2	○				●								
		韓国語Ⅰ		2	○			●									
		韓国語Ⅱ		2	○				●								
		フランス語Ⅰ		2	○			●									
		フランス語Ⅱ		2	○				●								
		ドイツ語Ⅰ		2	○			●									
		ドイツ語Ⅱ		2	○				●								
		スペイン語Ⅰ		2	○			●									
		スペイン語Ⅱ		2	○				●								
	小計（10科目）	0	20														

Ⅲ 各学部学科における教育課程と専門教育科目
(1) 生産システム科学部生産システム科学科

科目区分		授業科目の名称	単位数		授業形態			配当年次								卒業要件 及び 履修方法
			必修	選択	講義	演習	実験 実習	1年次		2年次		3年次		4年次		
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎科目	基礎数学A	2		○			●								必修 20単位	
	基礎数学B	2		○			●									
	応用物理学	2		○			●									
	工業力学	2		○				●								
	プログラミングⅠ	2		○				●								
	材料力学及び演習	2		○					●							
	工業熱力学及び演習	2		○					●							
	電気回路及び演習	2		○					●							
	流れ学及び演習	2		○						●						
	振動工学及び演習	2		○						●						
小計（10科目）		20	0													
専門共通科目	技術英語Ⅰ	2		○							●				35単位 以上	計87単位以上
	技術者倫理	2		○							●					
	機械設計製図Ⅰ	2			○						●					
	機械要素設計	2		○							●					
	生産加工学	2		○							●					
	技術英語Ⅱ	2		○							●					
	機械工作実習	1				○					●					
	機械電気工学実験Ⅰ	1				○					●					
	電気制御工学	2		○							●					
	数値解析	2		○								●				
	生産技術	2		○								●				
	課題探求プロジェクト	1			○							●				
	技術英語Ⅲ	2		○								●				
	機械電気工学実験Ⅱ	1				○						●				
	学外技術体験実習A		1			○					●	●				
	学外技術体験実習B		2			○					●	●				
	課題研究ゼミナール	2			○								●			
	卒業研究	8				○								●通年		
	小計（18科目）		34	3												
専門科目	化学入門		2	○			●								32単位 以上	
	応用数学		2	○				●								
	工業数学A		2	○				●								
	工業数学B		2	○					●							
	統計・確率論		2	○					●							
	エレクトロニクス概論		2	○					●							
	プログラミングⅡ		2	○					●							
	機械加工学	2生	2知	○						●						
	情報科学Ⅰ	2知	2生	○						●						
	機械材料学		2	○						●						
	応用電磁気学		2	○						●						
	環境適合技術論	2生	2知	○							●					
	機械設計製図Ⅱ	2生	2知		○						●					
	地球環境と環境流体	2生	2知	○							●					
	計算機科学	2知	2生	○							●					
	人工知能Ⅰ	2知	2生	○							●					
	電子回路		2	○							●					
	センサと通信	2知	2生	○								●				
	エネルギー資源と開発		2	○								●				
	情報科学Ⅱ		2	○								●				
	ロボット機構学		2	○								●				
	資源有効利用学		2	○								●				
	電気機器工学		2	○								●				
	人工知能Ⅱ		2	○								●				
	データマイニング		2	○								●				
	インテリジェント生産システム		2	○									●			
小計（26科目）		8	44													
合計（107科目）		78	130				卒業要件 合計 124単位以上									
学位又は称号		学士（工学）														

<注意> 専門科目の一部は、コースによって必修と選択が変わります。(生：生産機械コース、知：知能機械コース)

(2) 保健医療学部看護学科

① 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

学科の教育課程を教育目的に応じて6つのステージに分け、段階的に実施していく。

まず、学生が他学部・他学科の学生と共に幅広い教養を身につけ（1年次）、6つのステージに分けられた看護専門領域を、「人の身体と心を知るステージ」（1・2年次）→「人の健康問題を考えるステージ」（1・2年次）→「看護とは何かを理解するステージ」（1・2・3年次）→「看護ケア能力を育てるステージ」（2・3年次）→「看護ケア能力を拡げるステージ」（2・3・4年次）→「看護の未来を共創するステージ」（4年次）と、段階的に学修していくことが見える化できるように教育課程を編成し、看護師に求められる基礎力、応用力等を育成できる科目編成としている。

各ステージにおける詳細な教育実践については、教育段階の順に次のとおり取り組んでいく。

<人の身体と心を知るステージ>

看護の対象となる「人」の身体と心を知ることが本学科の導入ステージとし、看護学を学ぶ上で基礎となる科目を配置する。「解剖学」「生理学」「病理学」「感染免疫学」「栄養・生化学」「薬理学」「心の健康とストレスマネジメント論」の全7科目はいずれも必修科目とする。また、看護師と臨床工学士の将来的な協働チーム形成をめざして、「薬理学」と「心の健康とストレスマネジメント論」を除く5科目については、臨床工学科との連携科目とする。（開講年次：1・2年）

<人の健康問題を考えるステージ>

看護の対象になることが圧倒的に多いのは身体的・精神的・社会的健康問題を抱える人である。「人の健康問題を考える」ステージでは、疾病・治療論等の臨床医学に関する理解を深める科目を1、2年次に配置し、顕在的ならびに潜在的に最重要健康問題である生活習慣病、メンタルヘルス不調、認知症に関して看護ケアを提供するための知識・能力を育成する。（開講年次：1・2年）

<看護とは何かを理解するステージ>

1、2年次を中心に、主に基礎看護学の科目を配置し、根拠に基づき看護を計画的に実践する基礎能力を育成する。基礎看護学の次に、地域・在宅看護論の科目を配置することにより、早期から、地域で暮らす人々を理解し、地域の多様な健康課題をアセスメント、看護を実践する能力を育成する。

さらに、人の心の健康の保持・増進や、病を持つ人が回復していく過程で、その人らしさを取り戻して生活していくケアの実践は、領域を問わず必要となる能力であるため、精神保健看護学に係る科目を他の看護領域より早い時期で開講し、「医療倫理」、ヒューマンケアの基本に関する実践能力を育成する。（開講年次：1・2・3年）

<看護ケア能力を育てるステージ>

「人の身体と心を知るステージ」「人の健康問題を考えるステージ」「看護とは何かを理解するステージ」において、看護することの全体像を学生に描かせた後、特定の健康課題に対して、看護ケアが提供できる実践能力を育成するステージとする。各看護領域の科目を2年次から3年次に配置し、講義、演習を同時期に開講することで知識と技術がどう結びつくかを効率的に学んだ後、実習において実践能力を修得する。

小児看護学では主に新生児・乳幼児と家族、児童期・学童期・思春期の健康課題に対して、母性看護学では主に妊産婦の健康課題に対して、成人看護学では成人期の健康課題に対して、老年看護学では主に加齢に伴う健康課題に対して、看護ケアが提供できる実践能力を育成する。(開講年次：2・3年)

<看護ケア能力を拡げるステージ>

看護実践能力を臨床から地域へ拡げる意識を強く持たせるために「看護ケア能力を拡げる」ステージを設ける。そのため、地域・在宅看護論と看護の統合、そして公衆衛生看護学に係る科目は2年次から4年次にかけて継続的に開講し、ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力を長期的な視野で育成する。なお、保健師選択者は選択科目の公衆衛生看護学に関する講義、演習、実習の9科目18単位を必修科目とする。(開講年次：2・3・4年)

<看護の未来を共創するステージ>

最後の学びのステージとして、看護学の伝承から発展をめざし、学生が主体となって、看護の未来を教員と共に創る学びを充実させていく。このステージでは、必修科目に「研究方法論」「卒業研究」を配置し、教員の指導のもと、4年間の学びや実習を通じて発見した課題や関心をテーマとして研究し、卒業論文を作成、発表する。さらに、各教員が専門とする具体的な看護スキルを学生に獲得させ、学生が自信をもって実践的な看護専門職業人として巣立っていけることを目的とした「看護熟練の技」とあわせて3科目8単位を必修科目とする。また、選択科目には、他の医療職の役割と連携を学ぶ「チーム医療概論」や、外国人患者への対応法を学ぶ「看護と異文化理解」などの科目から、2単位以上を選択必修とする(開講年次：4年)。

成績評価は、各科目の到達目標に基づいて、厳格に行う。各科目の学修成果は、定期試験、中間試験、レポート、発表等で評価することとし、その評価方法の詳細については、授業内容の詳細とあわせてシラバスに記載する。科目によっては、実習先等の成績を参考に成績評価を行うことがある。

② 実施体制について

本学科では、教育内容に応じて、講義形式、演習形式、講義・演習形式、実習形式に区分しています。

講義における1クラスの学生数は、原則として1学年全体の50人で行いますが、保健医療学部には本学科の他に臨床工学科を有しており、両学科に共通して必要とされる科目があります。「解剖学」、「生理学」、「病理学」、「感染免疫学」、「栄養・生化学」、「公衆衛生学」の6科目は、連携科目として臨床工学科と合同で1クラス80名として行います。

演習についても、講義と同様に1クラス50名とします。専門領域の教員が共同で担当し、少人数教育として行うことで、学生一人ひとりに目の行き届く指導体制とします。グループワークやロールプレイングを取り入れ、講義での知識を積極的に活用、工夫し、教員及び学生同士の意見交換を通じて、コミュニケーション能力や協調性、課題解決力を養成します。

実習は、1グループ5名もしくは6名とし、看護領域によって1グループあたり複数名の教員が担当します。実習を行う施設は、南加賀地域の中核病院である小松市民病院の他、小松市、加賀市、能美市、白山市、野々市市、金沢市と、末広キャンパスから25km圏内にある近隣の医療機関・社会福祉施設、保健所、保健センター、健康管理センター、訪問看護ステーション、小中学校・高等学校などの教育施設及び事業所です。

卒業研究は、演習形式とします。教授、准教授が担当し、1グループあたり数名として、指導教員と相談して決定した研究課題の解決に取り組みます。研究結果を研究論文としてまとめ、提出するとともに、「卒業研究発表会」にて発表を行います。

③ 保健師養成課程の選択について

本学科では看護師養成課程に加えて、選択制で保健師国家試験受験資格取得者を養成する保健師養成課程を設置しています。

- 1) 定員上限：25名
- 2) 保健師養成課程の応募時期：2学年2月中旬（応募説明会は1月中旬）
- 3) 保健師養成課程の応募条件：入学時から2年次後期までの専門基礎科目および専門科目の単位をすべて取得し、保健師養成課程申請書および保健師養成課程志望理由書を提出した者

＊2年次後期において保留・不可科目を持っている人は選考の対象外となります。

- 4) 保健師養成課程の選考時期：2学年3月中旬
- 5) 保健師養成課程の選考方法：入学時から2年次後期までの専門基礎科目および専門科目の評価点を基準に、保健師養成課程志望理由書内容等を加えて総合的に選考します。保健師養成課程に入った学生は、看護師養成課程の科目に加え、公衆衛生看護学に関する講義、演習、実習の9科目18単位（専門科目の「看護ケア能力を広げるス

テージ」の選択科目)を必修科目として履修しなければなりません。

6) 養護教諭二種免許状申請に必要な科目と単位は本履修案内P11 枠内を参照のこと。

④ 開講科目について

ア. 専門基礎科目

○ 人の身体と心を知るステージ

看護の対象となる「人」の身体と心を知ることが本学科の導入ステージとし、看護学を学ぶ上で基礎となる科目を修得します。「解剖学」「生理学」「病理学」「感染免疫学」「栄養・生化学」「薬理学」「心の健康とストレスマネジメント論」の全7科目はいずれも必修科目とします。また、看護師と臨床工学士の将来的な協働チーム形成をめざして、「心の健康とストレスマネジメント論」「薬理学」を除く5科目については、臨床工学科との連携科目とします。(開講年次:1・2年)

【履修形式】

全7科目13単位を必修とします。

<必修科目>

解剖学、生理学、病理学、感染免疫学、栄養・生化学、薬理学、心の健康とストレスマネジメント論

○ 人の健康問題を考えるステージ

看護の対象になることが圧倒的に多いのは身体的・精神的・社会的健康問題を抱える人です。「人の健康問題を考える」ステージでは、疾病・治療論等の臨床医学に関する理解を深める科目を1、2年次に配置し、生活習慣病、メンタルヘルス不調、認知症に関して看護ケアを提供するための知識・能力を育成します。(開講年次:1・2年)

【履修形式】

全7科目11単位を必修とします。

<必修科目>

公衆衛生学、疾病・治療論(母子)、疾病・治療論(老年)、疾病・治療論(急性疾患)、疾病治療論(慢性疾患)、保健医療福祉法制度論、疫学・保健統計学

イ. 専門科目

○ 看護とは何かを理解するステージ

「看護とは何かを理解する」ステージでは、1、2年次を中心に、主に基礎看護学の科目を配置し、根拠に基づき看護を計画的に実践する基礎能力を育成します。基礎看護学の次に、地域・在宅看護論の科目を配置し、個人・家族が暮らす場における、地域の多様な健康課題のアセスメント能力や、多職種・地域の人々と協働しながら行う看護の実践能力を育成します。さらに、看護師として、人の心の健康の保持・増進や、病を持つ人が回復していく過程で、その人らしさを取り戻して生活していくケアの実践は、領域を問わず必要となる能力であるため、精神保健看護学に係る科目を他の看護領域より早

い時期で開講し、ヒューマンケアの基本に関する実践能力を育成します。(開講年次：1・2・3年)

【履修形式】

全 16 科目 23 単位を必修とします。

＜必修科目＞

看護学概論、医療倫理、基礎看護ケア提供論、基礎看護演習Ⅰ（療養上の世話）、基礎看護演習Ⅱ（フィジカルアセスメント）、基礎看護演習Ⅲ（看護過程）、基礎看護演習Ⅳ（診療の補助）、基礎看護実習Ⅰ、基礎看護実習Ⅱ、地域・在宅看護学概論、市民健康支援実習、精神保健看護学概論、精神保健看護ケア提供論、精神保健看護演習、精神保健看護実習Ⅰ、精神保健看護実習Ⅱ

○ 看護ケア能力を育てるステージ

「人の身体と心を知るステージ」「人の健康問題を考えるステージ」「看護とは何かを理解するステージ」において、看護することの全体像を学んだ学生に対して、看護ケアが提供できる実践能力を育成するステージです。各看護領域の科目を2年次から3年次に配置し、講義、演習を同時期に開講することで知識と技術がどう結びつくかを効率的に学んだ後、実習において実践能力を修得します。

小児看護学では主に新生児・乳幼児と家族、児童期・学童期・思春期の健康課題に対して、母性看護学では主に妊産婦の健康課題に対して、成人看護学では成人期の健康課題に対して、老年看護学では主に加齢に伴う健康課題に対して、看護ケアが提供できる実践能力を育成します。(開講年次：1・2・3年)

【履修形式】

全 23 科目 29 単位を必修とします。

＜必修科目＞

老年看護学概論、老年看護ケア提供論、老年看護演習Ⅰ、老年看護演習Ⅱ、老年看護実習Ⅰ、老年看護実習Ⅱ、成人看護学概論、成人看護ケア提供論、成人看護演習Ⅰ、成人看護演習Ⅱ、成人看護実習Ⅰ（急性期）、成人看護実習Ⅱ（慢性期）、母性看護学概論、母性看護ケア提供論、母性看護演習Ⅰ、母性看護演習Ⅱ、母性看護実習、小児看護学概論、小児看護ケア提供論、小児看護演習Ⅰ、小児看護演習Ⅱ、小児看護実習Ⅰ、小児看護実習Ⅱ

○ 看護ケア能力を拡げるステージ

看護実践能力を臨床から地域へ拡げる意識を強く持たせるためのステージであり、地域・在宅看護論と看護の統合や公衆衛生看護学に係る科目を2年次から4年次にかけて継続的に開講することでケア環境とチーム体制整備に関する実践能力を長期的な視野で育成します。なお、保健師養成課程の選択者は選択科目の公衆衛生看護学に関する講義、演習、実習の9科目18単位を必修科目とします。(開講年次：2・3・4年)

【履修形式】

全7科目10単位を必修とします。また、保健師養成課程に入った学生はさらに選択科目全9科目18単位を必修とします。

＜必修科目＞

地域・在宅看護ケア提供論、地域・在宅看護演習Ⅰ、地域・在宅看護演習Ⅱ、地域・在宅看護実習、看護統合実習、公衆衛生看護学概論、健康教育論

＜選択科目＞

公衆衛生看護方法論Ⅰ（対象別）、公衆衛生看護方法論Ⅱ（公衆衛生看護技術）、公衆衛生看護方法論Ⅲ（学校・産業・災害）、公衆衛生看護方法論Ⅳ（地域看護診断）、公衆衛生看護方法論Ⅴ（健康診査・家庭訪問・健康教育）、公衆衛生看護管理論、疫学・保健統計学演習、保健医療福祉行政論、公衆衛生看護実習

○ 看護の未来を共創するステージ

最後の学びのステージとして、「看護の未来を共創する」ステージを設けます。看護学の伝承から、看護学の発展をめざし、学生が主体となって、教員と共に看護の未来を創る過程を学んでいきます。このステージでは、必修科目に「研究方法論」「卒業研究」を配置し、教員の指導のもとに、4年間の学びや実習を通じて発見した課題や関心をテーマとして研究し、卒業論文を作成、発表します。さらに、各教員が専門とする具体的な看護スキルを学生に獲得させ、学生が自信をもって実践的な看護専門職業人として巣立っていけることを目的とした「看護熟練の技」とあわせて3科目8単位を必修科目とします。また、選択科目では、看護を創出する思考力と実践力を高めることを目的とした「医療技術の科学的検証」「チーム医療概論」など5科目から2単位以上を選択必修とします。（開講年次：4年）

【履修形式】

必修科目3科目8単位と選択科目2単位以上の計10単位以上とします。

＜必修科目＞

研究方法論、卒業研究、看護熟練の技

＜選択科目＞

グローバル感染対策、医療技術の科学的検証、リハビリと福祉技術、チーム医療概論、看護と異文化理解

⑤ 臨地実習の履修要件

保健医療学部看護学科において、3年次以降の臨地実習を履修するためには、2年次後期までに開講される専門基礎科目及び専門科目の必修科目の全ての単位を取得していなければなりません。

⑥ 卒業要件

保健医療学部看護学科の卒業要件単位数は、次のとおりです。

科 目 区 分			卒業要件単位数		
			必修科目	選択科目	合 計
共通教育科目	導入科目		8 単位	—	31 単位 以上
	一般科目	人間力	—	6 単位以上	
		社会力	—	4 単位以上	
		科学力	—	4 単位以上	
		健康と体力	—	1 単位以上	
	英語科目		8 単位	—	
	その他外国語科目		—	—	
専門基礎科目	人の身体と心を知るステージ		13 単位	—	24 単位
	人の健康問題を考えるステージ		11 単位	—	
専門科目	看護とは何かを理解するステージ		23 単位	—	72 単位以上 ※保健師養成 課程選択者は 90 単位以上
	看護ケア能力を育てるステージ		29 単位	—	
	看護ケア能力を拓げるステージ		10 単位	保健師養成 課程選択者 は必修 (18 単位)	
	看護の未来を共創するステージ		8 単位	2 単位以上	
卒業要件単位数		看護師課程 選択者	127 単位以上		
		保健師養成課程 選択者	145 単位以上		

<補足>

(ア) 保健師養成課程選択者については、専門科目の「看護ケア能力を拓げるステージ」の選択科目 18 単位を必修科目とします。

Ⅲ 各学部学科における教育課程と専門教育科目
(2) 保健医療学部看護学科

⑦ 教育課程表

科目区分	授業科目の名称	単位数		授業形態			配当年次								卒業要件 及び 履修方法
		必修	選択	講義	演習	実験 実習	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	
共通教育科目	導入科目	キャリアデザイン・チーム論	1		○		●								必修 8単位
		アカデミック・スキルズ	1		○		●								
		基礎ゼミ	2			○		●							
		情報処理基礎	2		○		●								
		南加賀の歴史と文化	2		○			●							
		小計 (5科目)	8	0											6単位 以上
	一般科目 (人間力)	哲学	2	○			●								
		心理学	2	○			●								
		人間の発達と心	2	○			●								
		日本の伝統芸能	2	○			●								
		人文地理学	2	○				●							
		文化人類学	2	○				●							
		医療と文化	2	○				●							
		文章表現法	2	○				●							
		言葉と文化	2	○				●							
		小計 (9科目)	0	18											4単位 以上
	一般科目 (社会力)	日本産業史	2	○			●								
		自然資源と環境問題	2	○			●								
		経済学	2	○			●								
		政治学	2	○				●							
		社会学	2	○				●							
		公共政策論	2	○				●							
		社会福祉論	2	○				●							
		日本国憲法	2	○				●							4単位 以上
		小計 (8科目)	0	16											
	一般科目 (科学力)	データ科学と社会	2	○				●							
		情報処理応用A	2	○				●							
		情報処理応用B	2	○				●							
		クリティカルシンキング	2	○				●							
		統計学	2	○				●							
		教養としての物理	2	○			●								
		教養としての数学	2	○			●								
		現代科学技術論	2	○			●								
		小計 (8科目)	0	16											1単位 以上
	(健康と体力)	健康と体の科学	2	○			●		※						
		スポーツ演習 (バレーボール)	1		○		●	●							
		スポーツ演習 (硬式テニス)	1		○		●								
		スポーツ演習 (フットサル)	1		○		●								
		スポーツ演習 (卓球)	1		○			●							
		スポーツ演習 (バドミントン)	1		○		●	●							
		小計 (6科目)	0	7											必修 8単位
	英語科目	英語Ⅰa	2		○		●								
		英語Ⅰb	2		○		●								
		英語Ⅱa	2		○			●							
		英語Ⅱb	2		○			●							
		英語Ⅲ	2		○			●							
		英会話Ⅰ	2		○			●							
		英会話Ⅱ	2		○			●							
		実用英語A	2	○			●								
		実用英語B	2	○				●							
		小計 (9科目)	8	10											その他外国語科目
	その他外国語科目	中国語Ⅰ	2	○			●								
		中国語Ⅱ	2	○				●							
		韓国語Ⅰ	2	○			●								
		韓国語Ⅱ	2	○				●							
		フランス語Ⅰ	2	○			●								
		フランス語Ⅱ	2	○				●							
		ドイツ語Ⅰ	2	○			●								
		ドイツ語Ⅱ	2	○				●							
		スペイン語Ⅰ	2	○			●								
		スペイン語Ⅱ	2	○				●							
		小計 (10科目)	0	20											

計31単位以上

Ⅲ 各学部学科における教育課程と専門教育科目
(2) 保健医療学部看護学科

科目区分		授業科目の名称	単位数		授業形態		配当年次								卒業要件 及び 履修方法		
			必修	選択	講義	演習	実験 実習	1年次		2年次		3年次		4年次			
専門基礎科目	人の身体と心を知るステージ	解剖学	2		○			●								必修 13単位	計24単位
		生理学	2		○			●									
		病理学	2		○				●								
		心の健康とストレスマネジメント論	1			○				●							
		感染免疫学	2		○				●								
		栄養・生化学	2		○				●								
		薬理学	2		○						●						
	小計（7科目）		13	0													
	人の健康問題を考えるステージ	公衆衛生学	1		○					●						必修 11単位	
		疾病・治療論（老年）	1		○					●							
		疾病・治療論（急性疾患）	1		○					●							
		疾病・治療論（母子）	2		○					●							
		疾病・治療論（慢性疾患）	2		○						●						
		保健医療福祉法制度論	2		○						●						
		疫学・保健統計学	2		○						●						
		多様性と異文化理解		1	○				●								
	小計（8科目）		11	1													
看護とは何かを理解するステージ	看護学概論	2			○		●								必修 23単位		
	基礎看護ケア提供論	2			○			●									
	地域・在宅看護学概論	1				○		●									
	市民健康支援実習	2					○			●							
	基礎看護演習Ⅰ（療養上の世話）	2				○		●									
	基礎看護演習Ⅱ（フィジカルアセスメント）	1				○			●								
	基礎看護演習Ⅲ（看護過程）	1				○			●								
	基礎看護演習Ⅳ（診療の補助）	2				○			●								
	医療倫理	1			○			●									
	基礎看護実習Ⅰ	1					○	●									
	基礎看護実習Ⅱ	2					○			●							
	精神保健看護学概論	1			○				●								
	精神保健看護ケア提供論	2			○				●								
	精神保健看護演習	1				○				●							
	精神保健看護実習Ⅰ	1					○			●							
	精神保健看護実習Ⅱ	1					○				●						
小計（16科目）		23	0														
専門科目	看護ケア能力を育てるステージ	老年看護学概論	1			○				●						必修 29単位	
		老年看護ケア提供論	1			○				●							
		老年看護演習Ⅰ	1				○				●						
		老年看護演習Ⅱ	1				○					●					
		老年看護実習Ⅰ	2					○				●					
		老年看護実習Ⅱ	1					○				●					
		成人看護学概論	1			○				●							
		成人看護ケア提供論	2			○				●							
		成人看護演習Ⅰ	2				○				●						
		成人看護演習Ⅱ	1				○					●					
		成人看護実習Ⅰ（急性期）	2					○				●					
		成人看護実習Ⅱ（慢性・回復期）	2					○				●					
		母性看護学概論	1			○				●							
		母性看護ケア提供論	1			○				●							
		母性看護演習Ⅰ	1				○				●						
		母性看護演習Ⅱ	1				○					●					
		母性看護実習	2					○				●					
		小児看護学概論	1			○				●							
		小児看護ケア提供論	1			○				●							
		小児看護演習Ⅰ	1				○				●						
		小児看護演習Ⅱ	1				○					●					
		小児看護実習Ⅰ	1					○			●						
		小児看護実習Ⅱ	1					○				●					
小計（23科目）		29	0														

Ⅲ 各学部学科における教育課程と専門教育科目
(2) 保健医療学部看護学科

科目区分		授業科目の名称	単位数		授業形態			配当年次								卒業要件 及び 履修方法	
			必修	選択	講義	演習	実験 実習	1年次		2年次		3年次		4年次			
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目	看護 ケア 能力を 拡げる ステージ	地域・在宅看護ケア提供論	1		○						●					必修 10単位 保健師 選択者は 更に 必修 18単位	計72単位 以上 保健師 選択者は 90単位以上
		地域・在宅看護演習Ⅰ	1			○						●					
		地域・在宅看護演習Ⅱ	1			○						●					
		地域・在宅看護実習	2				○					●					
		看護統合実習	3				○							●			
		公衆衛生看護学概論	1		○					●							
		健康教育論	1		○					●							
		公衆衛生看護方法論Ⅰ（対象別）		2	○							●					
		公衆衛生看護方法論Ⅱ（公衆衛生看護技術）		2	○								●				
		公衆衛生看護方法論Ⅲ（学校・産業・災害）		2	○									●			
		公衆衛生看護方法論Ⅳ（地域看護診断）		1		○								●			
		公衆衛生看護方法論Ⅴ（健康診査・家庭訪問・健康教育）		2		○								●			
		公衆衛生看護管理論		1	○									●			
		疫学・保健統計学演習		2		○							●				
		保健医療福祉行政論		1	○							●					
		公衆衛生看護実習		5				○							●		
	小計（16科目）	10	18														
	創 す る の ステージを 共有	グローバル感染対策		1	○									●		選択必修 2単位以上	
		医療技術の科学的検証		1	○									●			
		チーム医療概論		1	○										●		
		リハビリと福祉技術		1	○										●		
		看護と異文化理解		2	○										●	必修 8単位	
		看護熟練の技		2	○										●		
		研究方法論		2		○								●			
		卒業研究		4			○								●		
		小計（8科目）	8	6													
合計（133科目）		110	113	卒業要件 保健師選択者卒業要件										合計 127単位以上 145単位以上			
学位又は称号		学士（看護学）															

(3) 保健医療学部臨床工学科

① 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

安全で的確な医療技術の持続的提供と、社会に対する幅広い視野をもち地域における医療・保健・福祉の活動に貢献できる臨床工学技士などを育成することを目的として、以下の方針に基づき科目を配置し、教育課程を設定します。

- 臨床工学技士に必要な医学の基礎知識を修得する。
- 臨床工学技士に必要な理工学の基礎知識、能力を修得する。
- 安心で安全な医療・保健・福祉を実践するための臨床工学技術を修得する。
- 生命維持管理装置および医用治療機器などの原理と操作、保守、点検に関する知識と能力を修得する。
- 患者にとって安全で効果的な医療の提供と、地域の医療・保健・福祉の課題解決に取り組み、新たな医療技術の創出に寄与出来る能力、思考力を修得する。

成績評価は、各科目の到達目標に基づいて、厳格に行う。各科目の学修成果は、定期試験、中間試験、レポート、発表等で評価することとし、その評価方法の詳細については、授業内容の詳細とあわせてシラバスに記載する。科目によっては、実習先等の成績を参考に成績評価を行うことがある。

② 実施体制について

本学科では、教育内容に応じて講義形式、演習形式、講義・演習形式、実習形式に区分します。

本学科の講義は1クラスあたり30名として行いますが、保健医療学部で共通して必要な専門基礎教育科目は、連携科目として看護学科と合同で1クラス80名で行います。

演習は、工学分野における5科目を配置し、1人または複数の教員で担当します。「電気工学演習Ⅰ、Ⅱ」及び「電子工学演習Ⅰ、Ⅱ」は、それぞれ「電気工学Ⅰ、Ⅱ」及び「電子工学Ⅰ、Ⅱ」の講義と同時期に開講します。練習問題を繰り返し解くことで、講義で学んだ知識の早期習得を図ります。また、「プログラミング演習」は、デジタル化された医療データの解析方法を理解できる能力を養うために設けます。

実習は、学内実習と学外の臨床実習の2種類があります。学内実習は1クラス30名に対し、複数人の教員が担当します。1グループ5名程度にわかれ、臨床工学技士に必要な電気電子関係の基礎、取り扱う各種医療機器の動作、安全管理に関する知識、技術を修得します。また、学外実習となる臨床実習は1施設あたり3名程度で行い、教授を含む約6名の教員で対応します。講義や演習、学内実習における知識の習得が、臨床現場で実践できているかを確認し指導を行います。実習施設は主に、人工心肺、血液浄化、集中治療室及び手術室、高気圧酸素治療の一部または全部の機能を有している北陸3県の医療機関とします。

卒業研究は、ゼミ形式とし全教員が担当し、教員1名あたり3名程度の学生を受け持ちます。学生が臨床実習を通じて発見した医療現場の課題をはじめ、指導教員と相談して決定したテーマについて研究し、その成果を論文として纏めます。

③ 開講科目について

ア. 専門基礎科目

「医学的基礎」と「理工学的基礎」の2つに分類し、それぞれに必要な科目を修得します。「医学的基礎」科目においては、1年次及び2年次に臨床工学の全体像を知り、臨床工学技士に求められる医学的基礎知識や医療従事者としての倫理に関する科目を修得します。また、「理工学的基礎」科目においては、1年次から3年次までを通じて、医療機器や生体計測について、それらの基礎を理解して、適切な運用と応用する能力を身につけるための電気、電子工学、情報工学及びシステム工学などの科目を段階的に修得します。さらに、実習を通して工学的基礎の理解を深めると同時に、計測機器の操作に習熟します。これらの科目を修得することにより、安心・安全な医療を提供するための基礎力を身に着けることができます。

【履修形式】

○ 医学的基礎

必修科目から5科目9単位、選択科目から10単位以上を必修とします。

<必修科目>

解剖学、生理学、栄養・生化学、解剖生理学実習、医学概論

<選択科目>

医療倫理、チーム医療概論、医療関係法規、病理学、薬理学、公衆衛生学、感染免疫学

○ 理工学的基礎

必修科目から12科目23単位、選択科目から5単位以上を必修とします。

<必修科目>

応用数学、電気工学I、電気工学II、電気工学実習、電子工学I、電子工学II、電子工学実習、情報処理工学、プログラミング演習、システム工学、システム・情報処理実習、医用工学概論

<選択科目>

電気工学演習I、電気工学演習II、電子工学演習I、電子工学演習II、医用機械工学

イ. 専門科目

専門分野ごとに「医用生体工学」「医用機器学」「生体機能代行技術学」「医用安全管理学」「総合実践」の5つに分類します。2年次から4年次を通じて、専門基礎科目で修得した医療および臨床工学の基礎知識と能力に基づき、高度化する医療技術を患者に安心かつ安全に提供するための臨床工学の専門知識と技術に関する科目を修得します。講

義、演習、学内実習の実施に際し、学生がより効果的に学べるように教育機器やシミュレーションモデルを積極的に利用します。さらに、選択科目の「病態神経科学」や看護学科との連携科目である「地域包括ケア」「地域の健康課題と多職種連携」を修得し、地域の医療現場の現状や課題、医療職間連携について学ぶことで、地域医療における臨床工学技士の役割を認識できます。

「総合実践」科目では、現代医療に欠かせない高度医療機器のスペシャリストとして、柔軟な思考力と応用力を育成し、課題解決能力と創造的な実践力を身に着けるための科目を修得します。臨床実習では、医療機器の操作技術と医療を提供する者としての責任感と倫理観、他者と連携して医療課題へ対応する協調性などを養成します。卒業研究では、臨床実習を通じて発見した医療現場における課題などをテーマに、その解決法の開発と検証に取り組みます。

【履修形式】

○ 医用生体工学

必修科目から 2 科目 3 単位、選択科目から 3 単位以上を必修とします。

＜必修科目＞

生体物性工学Ⅰ、計測工学

＜選択科目＞

生体物性工学Ⅱ、医用材料工学

○ 医用機器学

必修科目から 5 科目 9 単位、選択科目から 3 単位以上を必修とします。

＜必修科目＞

医用機器学概論、医用治療機器学Ⅰ、治療機器生体計測学実習、生体計測装置学Ⅰ、臨床支援技術学

＜選択科目＞

医用治療機器学Ⅱ、生体計測装置学Ⅱ、臨床支援技術学実習

○ 生体機能代行技術学

必修科目から 8 科目 16 単位、選択科目から 4 単位以上を必修とします。

＜必修科目＞

呼吸機能代行装置学、呼吸機能代行装置学実習、循環機能代行装置学、循環機能代行装置学実習、代謝機能代行装置学、代謝機能代行装置学実習、臨床医学 A、臨床医学 B

＜選択科目＞

臨床医学 C、臨床医学 D

○ 医用安全管理学

全 2 科目 4 単位を必修とします。

＜必修科目＞

医用機器安全管理学、医用機器安全管理学実習

○ 総合実践科目

必修科目から3科目11単位、選択科目から2単位以上を必修とします。

＜必修科目＞

臨床実習、臨床実習事前事後演習、卒業研究

＜選択科目＞

病態神経科学、リハビリと福祉技術、臨床画像工学、グローバル感染対策、医療技術の科学的検証、臨床工学特別演習

④ 臨床実習の履修要件

保健医療学部臨床工学科において、4年次の臨床実習を履修するためには、3年次後期までに開講される専門基礎科目及び専門科目の必修科目の全ての単位を取得していなければなりません。

⑤ 卒業要件

保健医療学部臨床工学科の卒業に必要な単位数は次のとおりです。

科 目 区 分			卒業要件単位数		
			必修科目	選択科目	合 計
共通教育科目	導入科目		8 単位	－	31 単位 以上
	一般科目	人間力	－	6 単位以上	
		社会力	－	4 単位以上	
		科学力	－	4 単位以上	
		健康と体力	－	1 単位以上	
	英語科目		8 単位	－	
	その他外国語科目		－	－	
専門基礎科目	医学的基礎		9 単位	10 単位	102 単位以上
	理工学的基礎		23 単位	5 単位	
専門科目	医用生体工学		3 単位	3 単位	
	医用機器学		9 単位	3 単位	
	生体機能代行技術学		16 単位	4 単位	
	医用安全管理学		4 単位	－	
	総合実践科目		11 単位	2 単位以上	
卒業要件単位数			133 単位以上		

Ⅲ 各学部学科における教育課程と専門教育科目
(3) 保健医療学部臨床工学科

⑥ 教育課程

科目区分	授業科目の名称	単位数		授業形態			配当年次								卒業要件 及び 履修方法
		必修	選択	講義	演習	実験 実習	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	
共通 教育 科目	キャリアデザイン・チーム論	1		○			●								必修 8単位
	アカデミック・スキルズ	1		○			●								
	基礎ゼミ	2			○			●							
	情報処理基礎	2		○			●								
	南加賀の歴史と文化	2		○				●							
	小計(5科目)	8	0												6単位 以上
	哲学		2	○			●								
	心理学		2	○			●								
	人間の発達と心		2	○			●								
	日本の伝統芸能		2	○			●								
	人文地理学		2	○				●							
	文化人類学		2	○				●							
	医療と文化		2	○				●							
	文章表現法		2	○				●							
	言葉と文化		2	○				●							
	小計(9科目)	0	18												4単位 以上
	日本産業史		2	○			●								
	自然資源と環境問題		2	○			●								
	経済学		2	○			●								
	政治学		2	○				●							
	社会学		2	○				●							
	公共政策論		2	○				●							
	社会福祉論		2	○				●							
	日本国憲法		2	○				●							
	小計(8科目)	0	16												4単位 以上
	データ科学と社会		2	○				●							
	情報処理応用A		2	○				●							
	情報処理応用B		2	○				●							
	クリティカルシンキング		2	○				●							
	統計学		2	○				●							
	教養としての物理		2	○			●								
	教養としての数学		2	○			●								
	現代科学技術論		2	○			●								
	小計(8科目)	0	16												1単位 以上
	健康と体の科学		2	○			●								
	スポーツ演習(バレーボール)		1		○		●	●							
	スポーツ演習(硬式テニス)		1		○		●								
	スポーツ演習(フットサル)		1		○		●								
	スポーツ演習(卓球)		1		○			●							
	スポーツ演習(バドミントン)		1		○		●	●							
	小計(6科目)	0	7												必修 8単位
	英語Ⅰa		2		○		●								
	英語Ⅰb		2		○		●								
	英語Ⅱa		2		○			●							
	英語Ⅱb		2		○			●							
	英語Ⅲ		2	○				●							
	英会話Ⅰ		2		○			●							
	英会話Ⅱ		2		○			●							
	実用英語A		2	○			●								
	実用英語B		2	○				●							
	小計(9科目)	8	10												—
	中国語Ⅰ		2	○			●								
	中国語Ⅱ		2	○				●							
	韓国語Ⅰ		2	○			●								
	韓国語Ⅱ		2	○				●							
	フランス語Ⅰ		2	○			●								
	フランス語Ⅱ		2	○				●							
	ドイツ語Ⅰ		2	○			●								
	ドイツ語Ⅱ		2	○				●							
	スペイン語Ⅰ		2	○			●								
	スペイン語Ⅱ		2	○				●							
	小計(10科目)	0	20												

計31単位以上

Ⅲ 各学部学科における教育課程と専門教育科目
(3) 保健医療学部臨床工学科

科目区分		授業科目の名称	単位数		授業形態			配当年次								卒業要件 及び 履修方法		
			必修	選択	講義	演習	実験 実習	1年次		2年次		3年次		4年次				
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
専門基礎科目	医学的基礎	解剖学	2		○			●								必修9単位 かつ 選択10単位以上	必修32単位 かつ 選択15単位以上	
		解剖生理学実習	2				○			●								
		生理学	2		○			●										
		栄養・生化学	2		○				●									
		医療倫理		1	○				●									
		チーム医療概論		1	○									●				
		医療関係法規		1	○									●				
		病理学		2	○				●									
		薬理学		2	○						●							
		公衆衛生学		1	○						●							
		医学概論	1		○							●						
		感染免疫学		2	○					●								
	小計（11科目）		9	10					●									
	理工学的基礎	応用数学	2		○				●									必修23単位 かつ 選択5単位以上
		電気工学Ⅰ	2		○				●									
		電気工学Ⅱ	2		○					●								
		電気工学演習Ⅰ		1		○			●									
		電気工学演習Ⅱ		1		○				●								
		電気工学実習	2				○				●							
		電子工学Ⅰ	2		○					●								
		電子工学Ⅱ	2		○						●							
		電子工学演習Ⅰ		1		○				●								
		電子工学演習Ⅱ		1		○					●							
		電子工学実習	2				○					●						
		医用機械工学		1	○						●							
		情報処理工学	2		○				●									
		プログラミング演習	1			○				●								
		システム工学	2		○						●							
		システム・情報処理実習	2				○					●						
		医用工学概論	2		○					●								
		小計（17科目）		23	5						●							

Ⅲ 各学部学科における教育課程と専門教育科目
(3) 保健医療学部臨床工学科

科目区分		授業科目の名称	単位数		授業形態			配当年次								卒業要件 及び 履修方法		
			必修	選択	講義	演習	実験 実習	1年次		2年次		3年次		4年次				
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
専門科目	医用生体工学	生体物性工学Ⅰ	2		○					●						必修3単位 かつ 選択3単位以上	必修43単位 かつ 選択12単位以上	
		生体物性工学Ⅱ		2	○						●							
		医用材料工学		1	○						●							
		計測工学	1		○							●						
		小計（4科目）	3	3														
	医用機器学	医用機器学概論	2		○					●								必修9単位 かつ 選択3単位以上
		医用治療機器学Ⅰ	2		○						●							
		医用治療機器学Ⅱ		1	○							●						
		生体計測装置学Ⅰ	2		○						●							
		生体計測装置学Ⅱ		1	○							●						
		治療機器生体計測学実習	2				○						●					
		臨床支援技術学	1		○							●						
		臨床支援技術学実習		1			○						●					
		小計（8科目）	9	3														
	生体機能代行技術学	呼吸機能代行装置学	2		○					●								必修16単位 かつ 選択4単位以上
		呼吸機能代行装置学実習	2				○				●							
		循環機能代行装置学	2		○						●							
		循環機能代行装置学実習	2				○					●						
		代謝機能代行装置学	2		○						●							
		代謝機能代行装置学実習	2				○					●						
		臨床医学A	2		○							●						
		臨床医学B	2		○								●					
		臨床医学C		2	○									●				
		臨床医学D		2	○									●				
		小計（10科目）	16	4														
	医用安全管理学	医用機器安全管理学	2		○								●					必修4単位
		医用機器安全管理学実習	2				○							●				
		小計（2科目）	4	0														
	総合実践科目	病態神経科学		1	○											●		必修11単位 かつ 選択2単位以上
		リハビリと福祉技術		1	○											●		
		臨床画像工学		1	○											●		
		グローバル感染対策		1	○									●				
		医療技術の科学的検証		1	○									●				
		臨床工学特別演習		1		○									●			
		臨床実習	6				○								●			
		臨床実習事前事後演習	1			○									●			
		卒業研究	4			○									●			
		小計（9科目）	11	6														
	合計（116科目）		91	118	卒業要件 合計 132単位以上													
学位又は称号		学士（臨床工学）																

(4) 国際文化交流学部国際文化交流学科

① 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

「国際社会に対する知識と国際感覚を備え、強い人間力と豊かな知性・感性をもって地域社会の振興と我が国の持続的発展に貢献できる人材を育成する」という学部の教育理念に基づき、ディプロマ・ポリシーに掲げる多様な人材を地域社会と企業に送り出すために、段階的履修を通じて一つの専門に偏らぬ学習ができるカリキュラム構成とします。

また、CAP 制の採用と課題解決型のアクティブラーニングによって、学生の1授業当たりの学習時間と授業効果を高め、4年次後期までしっかりと授業に集中させます。

○ 基礎力の形成

- ・ 1年次は、導入科目によって、本学科で学ぶ意義を理解し、一般科目によって幅広い素養を身につける。
- ・ 2年次は、国際社会と地域社会についての基礎知識と専門分野へのアプローチの方法を学ぶ。

○ 外国語能力の形成

- ・ 1年次から3・4年次まで、英語、中国語を継続的、段階的に学習し、TOEICなどの検定試験によって到達段階を確認する。

○ 応用・実践力の形成

- ・ 3・4年次開講の演習、海外での語学研修、異文化体験実習及び国内での地域実習、インターンシップ等を通じて、異文化対応能力や地域からの発信能力を身につける。また、卒業論文執筆のプロセスを通じて調査、プレゼンテーション能力等の向上を図る。

○ 地域の国際化を射程に入れた地域活性化や町づくりのための仕組みについて、観光という視点から考え、理解を深める。

○ 中国・台湾、ASEAN 地域から中東及び旧ソ連圏に至る国際政治、経済、社会などについて幅広く学ぶ。

○ 言語そのものの分析や、文化や社会との関わりの理解と言語による文化的創造について幅広く学ぶ。

成績評価は、各科目の到達目標に基づいて、厳格に行う。各科目の学修成果は、定期試験、中間試験、レポート、発表等で評価することとし、その評価方法の詳細については、授業内容の詳細とあわせてシラバスに記載する。科目によっては、実習先等の成績を参考に成績評価を行うことがある。

② 実施体制について

本学科では、教育内容に応じて講義形式、演習形式、講義・演習形式、実習形式に区分します。

講義は、専門基礎科目は1クラス80名、2年後期以後のコース決定後は原則1クラス40名以下で行います。

演習は、各コースに専門領域ごとに設けるものと外国語科目とします。各コースでの演習は、1クラス20名以下とし、アクティブラーニングの手法を用いて学生のプレゼンテーション能力と主体性を養成します。また、外国語科目では1クラス40名で行います。書く、聞くだけではなく、参加型の内容を採用することで、学生自らの頭で考え、工夫して話す、表現するための基礎力と姿勢までを幅広く養います。

実習については、1教員あたり学生5名程度を担当します。

卒業研究は、8単位を認定します。4年間の学習の集大成であり、①構想、②調査、③整理・分析、④執筆、という4段階の過程があります。本学部では各コースとも、構想段階での着想と「足と手を使った」調査を重視しています。卒業研究の評価基準は、着想の豊かさと独創性、調査に要した労力（読書量を含む）、データ整理能力、分析の独創性、執筆力・表現能力、そして論理性、これらを総合して判定します。

③ コースの選択について

2年次前期終了時に「国際観光・地域創生コース」「グローバルスタディーズコース」の2コースのいずれかを選択します。コースの選択は、学生一人ひとりの興味や関心、希望進路や就職先を十分に踏まえて行われるべきものであることから、本学科では、入学時での学部オリエンテーションにおいてコース選択について十分な説明を行います。また、すべての学生に相談教員を配置して学生の学修とキャリアプラン形成をサポートし、コースの選択にあたって、相談教員が学生の適性や関心を考慮して助言します。

それぞれのコースには、学生の受入上限（国際観光・地域創生コース 30～35名程度、グローバルスタディーズコース 60～65名程度）を設定し、希望者が受入上限を超える場合には、選択時点における通算GPAなどを判断材料として調整を行います。

④ 英語プログラム

本学科では、英語力と異文化コミュニケーション力の涵養を目的として、「英語プログラム」を開講します。一部科目を、「EPlus科目」として、英語で開講します。以下の「EPlus科目」の中から12単位以上取得した学生には、「英語プログラム」を修了したことの証明として、卒業時に「英語プログラム修了証」を発行します。ただし、「EPlus科目」の対象科目は、変動する場合があります。

<EPlus科目>

1年次前期：「日本を知る－文化・社会・歴史の観点からA」

- 1 年次後期：「日本を知る－文化・社会・歴史の観点から B」
- 2 年次前期：アジア社会論
- 2 年次後期：日本社会論、英語圏表象文化論、海外語学研修
- 3 年次前期：東南アジア地域社会論、宗教社会論、グローバル論、Tourism English II、ホスピタリティ論
- 3 年次後期：現代日本論、中国語圏社会文化論

⑤ 開講科目について

ア. 専門基礎科目

国際文化交流学部学生に求められる世界、日本、そして地域社会についての基礎知識と専門分野へのアプローチの方法を学びます。学部共通の科目として 11 科目を設置し、うち 2 科目 4 単位を必修とし、5 科目 10 単位を 2 年前期に選択します。「国際地域研究入門」では、国際文化交流学科で展開していく地域に関する専門科目の入口として、世界の諸地域について、それぞれの成り立ちや他地域との関係なども含め、その地域ならではの特徴を広く学んでゆきます。「世界遺産を学ぶ」では、世界遺産を切り口として、歴史や文化の他、政治・経済、技術、環境問題、戦争と平和など国際関係を学ぶ上での基本的な問題について考えます。「観光学概論」、「地域政策概論」では、地域における取り組みをもとにした議論を深めてゆくための、観光学、地域政策論の基礎を学びます。「グローバルヒストリー」、「アジア社会論」では、台湾を含む東アジア、東南アジア（特に ASEAN 諸国）、中東を中心に、アジア社会の特質を広く学びます。「異文化コミュニケーション論」では、文化摩擦の実態と多文化主義について学び、「日本文化論」では日本の伝統文化を学ぶことで、異文化を受容するための素養を身につけます。また、「言語学概論」では、言語分析を通じて明晰な思考法を学びながら、言葉と社会の関わりについて学びます。

【履修形式】

「国際地域研究入門」「異文化コミュニケーション論」の 2 科目 4 単位を必修とし、他の 9 科目中 5 科目 10 単位を選択必修とします。

＜必修科目＞

国際地域研究入門、異文化コミュニケーション論

＜選択科目＞

世界遺産を学ぶ、日本を知る－文化・社会・歴史の観点から A、日本を知る－文化・社会・歴史の観点から B、観光学概論、地域政策概論、グローバルヒストリー、アジア社会論、日本文化論、言語学概論

イ. 専門外国語科目

専門外国語科目は英語科目と中国語科目によって構成されます。国際社会における共

通言語として認識されている英語を重視しながら、日中関係の重要性を見据えて中国語を加えた2言語における実践的語学力を徹底して修得します。中国語は中華人民共和国のみならず東アジア社会の中で広く通用しており、“中国語圏”を形成しています。北陸地域の製造業には中国語圏を主要な市場とする企業も多く、また、観光においても小松空港を経由して流入する外国人観光客は中国語圏の旅行客が最も多いが、現在これらに対応しているのは、主に在日中国人、台湾人であり、今後安定した国際交流を発展させるためには、中国語を使える日本人の養成は客観的に必要不可欠となっています。2言語における理解力と表現力を鍛えるために「English comprehension Ia」「English expression I」「中国語Ia」「中国語Ib」「中国語IIa」「中国語IIb」の6科目12単位を必修科目として1～2年次に開講し、コミュニケーションの基礎能力を徹底して身につけます。なお、4つの中国語科目では、英語学習との相乗効果を目的として英語による説明を導入します。2年次前期終了時点で学生の希望進路にあわせて2つのコースに分かれるため、それぞれの分野に応じて求められる語学力を鍛えるための科目を選択科目として2言語9科目配置します。さらに、1、2年次を通じて学んだ外国語の応用科目を3、4年次に開講し、2言語あわせて10科目を配置します。授業ではネイティブ教員、日本人教員ともにターゲット言語を使用し、学生にアクティブに授業に取り組ませます。この他、ネイティブ教員による少人数授業を取り入れ、丁寧な指導に取り組んでいきます。

【履修形式】

指定する6科目12単位を必修とします。選択科目19科目中8科目16単位以上を選択必修とします。

<必修科目>

English comprehension Ia、English expression I、中国語Ia、中国語Ib、中国語IIa、中国語IIb

<選択科目>

English comprehension Ib、English comprehension II、English comprehension III、English expression IIa、English expression IIb、English expression III、Tourism English I、Tourism English II、English presentation A、English presentation B、中国語IIIa、中国語IIIb、中国語IVa、中国語IVb、中国語理解I、中国語理解II、中国語表現法、中国語会話、ビジネス中国語

ウ. 専門科目

専門科目には、科目の分野・領域に応じて(i)観光・地域創生系、(ii)政治経済系、(iii)言語文化系、の三科目群を設置します。(i)は、国際観光・地域創生コース、(ii)及び(iii)はグローバルスタディーズコースの養成する人材像及びディプロマ・ポリシーと関連しますが、2年後期に開講される「観光社会学」「観光の新たな展開」「観光産業概論」「多文化共生社会論」「地域イノベーション論」「国際政治論」「国際貿易論」「中

国語圏社会文化論」「アジア現代史概論」「英語圏言語文化論」「中国言語文化論」「英語圏表象文化論」の全 12 科目は国際文化交流学部で履修すべき基幹科目と位置づけられるため、コースを越えた履修を奨励します。この 12 科目のうち、各コースで特に重点を置く科目をコース必修科目として設定します。以上を踏まえ、国際観光・地域創生コース選択者は (i) の科目群から 24 単位以上、グローバルスタディーズコース選択者も (ii) (iii) の科目群から 24 単位以上を修得します。

また、(i)、(ii)、(iii) の三科目群は、相互に関連性を持ち、補完的な関係にあります。グローバル時代における地域社会の活性化という本学部の人材育成目標を達成するためには、学生は幅広い素養と視野をもつことが必要であることから、国際観光・地域創生コース選択者は (ii) (iii) の科目群から、グローバルスタディーズコース選択者は (i) の科目群から 4 科目 8 単位以上を修得します。

(i) 観光・地域創生系科目群

観光・地域創生系科目群は、地域のグローバル化を射程に入れた地域活性化やまちづくりのための仕組みについて、観光という視点から考え、理解を深めるための科目で編成しています。

2 年次後期に 5 つの基幹科目、「観光社会学」「観光の新たな展開」「観光産業概論」「多文化共生社会論」「地域イノベーション論」を開講し、現代社会における観光のあり方、持続的観光、地域資源の発掘、活用、デザインと観光地側、観光客側の双方の視点から見た情報分析の基礎的手法等について幅広く学び、小松市を中心とした南加賀地域や北陸地域における自治体や観光産業関係者の取り組みを事例として取り上げながら理解を深めていきます。国際観光・地域創生コース選択者にはこれらの科目を必修とし、グローバルスタディーズコース選択者にも履修を奨励します。

3 年次からは地域のグローバル化、高齢化、ブランディングなど、現在地域が抱える様々な課題に対し、観光学の視点から地域活性化を実現していくための具体的知識や手法を学ぶための科目を配置しています。

【履修形式】

国際観光・地域創生コース選択者は、「観光社会学」「観光の新たな展開」「観光産業概論」「多文化共生社会論」「地域イノベーション論」の 5 科目 10 単位をコース必修科目とし、選択科目 11 科目中 7 科目 14 単位以上を選択必修とします。

<選択科目>

地域資源と観光、観光文化論、環境と観光、観光マーケティング論、インバウンド観光論、ホスピタリティ論、ユニバーサルツーリズム論、地域観光ビジネス論、地域文化政策論、地域ビジネス創造論、社会調査法

(ii) 政治経済系科目群

政治経済系科目群は、中国・台湾、ASEAN 諸国から中東及び旧ソ連圏に至る国際政治、経済、社会などについて幅広く学ぶための科目で編成しています。

2 年次後期に 4 つの基幹科目、「国際政治論」「国際貿易論」「中国語圏社会文化論」「アジア現代史概論」を開講し、日本を取り巻く国際環境の変遷や中国の経済的影響力、地域共同体である ASEAN 共同体の経済や安全保障における役割、自由貿易協定、移民・難民など、日本に身近な問題を中心に学びます。グローバルスタディーズコース選択者には、このうち「国際政治論」「国際貿易論」を必修とし、国際観光・地域創生コース選択者にも履修を奨励します。

3 年次からは、アジア各地域の社会特性を理解するための科目とともに、地域を越えた国際協力、貿易、エネルギー、メディア、宗教などに関する科目を配置し、それらを学際的に考察、分析、研究するための手法について学びます。

【履修形式】

グローバルスタディーズコース選択者は、「国際政治論」「国際貿易論」の 2 科目 4 単位をコース必修科目とし、選択科目 14 科目中 8 科目 16 単位以上を選択必修とします。

＜選択科目＞

中国語圏社会文化論、アジア現代史概論、東南アジア地域社会論、国際開発論、国際コミュニティ論、イスラーム社会論、中東政治論、資源エネルギー・環境論、新興国経済論、グローバル論、現代日本論、宗教社会論、メディア社会論、日本社会論

(iii) 言語文化系科目群

言語文化系科目群は、言語そのものの分析や、文化や社会との関わりの理解と言語による文化的創造について幅広く学ぶための科目で編成しています。

2 年次後期に 3 つの基幹科目、「英語圏言語文化論」「中国言語文化論」「英語圏表象文化論」では、英語、中国語の特質、歴史とその文化的背景及び文化的創造について学びます。グローバルスタディーズコース選択者には、このうち「英語圏言語文化論」「中国言語文化論」を必修とし、これら 3 つの基幹科目は国際観光・地域創生コース選択者にも履修を奨励します。

3 年次からは、「英語研究」「中国語研究」のように、個別言語の特質を掘り下げて考える科目のほか、「日英対照言語表現論」「比較文学論」のように、日本と英語圏、中国語圏などを比較・対照する科目を配置し、個別の言語文化をユニバーサルな観点から捉える能力を涵養します。また、日本語、日本文学関係の科目も配置しています。

【履修形式】

グローバルスタディーズコース選択者は、「英語圏言語文化論」「中国言語文化論」の 2 科目 4 単位をコース必修科目とし、選択科目 12 科目中 8 科目 16 単位以上を選択必修とします。

＜選択科目＞

英語圏表象文化論、英語研究 A、英語研究 B、中国語研究 A、中国語研究 B、社会言語学、日本語の歴史、語用論、日英対照言語表現論、比較文学論、日本古典読解、異文化間心理学

(iv) 学外実践科目

学外実践科目は、学生が教室で学んだことを教室の外で実践し、その成果を糧に社会に羽ばたいていくことを目的とし、コースを問わず本学部のすべての学生が参加します。

「インターンシップⅠ・Ⅱ」は、学修を実社会での経験に結びつけることにより学生の学習意欲を高め、知的好奇心を喚起するとともに自身の学修を深化させ、課題解決能力・実践力を身につけ、自己の適性や職業選択を考えることによりキャリアデザインの明確化にも繋げる科目です。また、「異文化体験実習」は、異なる文化、歴史、社会の中に学生自身が身を置く中で体験的に生活様式や文化を理解し、また、現地の地域資源を活かした観光分野の取組に触れることによって異文化を実践的に学ぶ科目です。「海外語学研修」は、英語及び中国語の実践能力向上を目的とした科目であり、培ってきた語学力、コミュニケーション能力を土台として実践的な外国語運用能力を習得するとともに、異文化社会の中での生活を通して自己の課題を見つけ、今後のよりよい学習のあり方を考える機会にもなります。「地域実習」は、学修成果を生かして、観光振興、地域創生、国際交流に求められる企画・情報収集・分析・問題解決を実践する能力を身につけるとともに、コミュニケーション力と情報発信力を修得することを狙いとしています。また、主に小松地域での観光・町おこしのための実習を教員のサポートを受けながら学生が主体的に実施するものであり、地域が直面する問題と対処法を学ぶとともに、協力先のサポートを受けながら企画能力や情報発信能力を身につける科目です。「学外 PBL 研修」は、学生グループが運営するプロジェクト活動を単位として行われる問題解決型授業です。国内外の関係機関と連携し、課題の探索と問題点の明確化、問題を解決する手段の検討、計画立案、それらを実現するための能力を身につける科目です。また、海外長期留学にかかる単位互換用の読替専用科目として海外習得科目(言語系)と海外習得科目(社会・文化系)が配置されています。

全 6 科目のうち、「インターンシップⅠ」、「インターンシップⅡ」、「異文化体験実習」、「海外語学研修」、「地域実習」「学外 PBL 研修」の 6 科目は主に 3 年次で履修します。

【履修形式】

選択科目 6 科目中 4 単位以上を選択必修とします。

＜選択科目＞

インターンシップⅠ、インターンシップⅡ、異文化体験実習、海外語学研修、地域実習、学外 PBL 研修

(v) 演習科目

演習科目として、3 年次前期に「演習 A」、3 年次後期に「演習 B」が開講されます。国際観光・地域創成コースにおける「演習 A」では、観光や地域創生、多文化共生などに関する議論が行われ、後期に開講する「演習 B」では、前期の演習を承けて、学生が自ら課題を設定して調査研究に取り組みます。地域活性化の具体策の考案、実施、評価に地域と連携して主体的に取り組み、自らの学びが地域貢献に繋がることが実感できま

す。そのため、「演習 B」においては、小松市を中心とした南加賀地域に関して演習課題の設定やフィールドワーク先を設定します。

グローバルスタディーズコース（政治経済系）における「演習 A」は、国際政治、国際経済、国際社会の 3 つのテーマに分類し、「演習 B」では、前期の演習を承けて、学生が自ら課題を設定して調査研究に取り組みます。それぞれの分野における課題と解決法の考案に取り組むことで、情報分析能力と課題解決能力を養成します。演習課題の設定にあたっては、国際空港である小松空港に関する事項を取り入れるなど、地域の持つ強みや特徴を生かしたものも取り入れています。グローバルスタディーズコース（言語文化系）における「演習 A」は、社会言語学のように言語を越えて広く学ぶものから、英語圏、中国語圏、そして日本語、日本文化に特定したテーマとすることで、明晰な思考力と豊かな素養に裏付けられたコミュニケーション能力を涵養します。「演習 B」にあたっては、小松市を主なフィールドとして、居住する外国人を対象とした調査を行うなど、地域の国際化を演習課題の設定に生かしていきます。4 年次では、卒業研究を必修科目とします。

【履修形式】

必修科目 3 科目 12 単位を選択する。

＜必修科目＞

演習 A、演習 B、卒業研究

⑥ 卒業要件

国際文化交流学部国際文化交流学科の卒業に必要な単位数は次のとおりです。

【国際観光・地域創生コース】

科 目 区 分			卒業要件単位数		
			必修科目	選択科目	合 計
共通教育科目	導入科目		8 単位	－	37 単位以上
	一般科目	人間力	－	6 単位以上	
		社会力	－	6 単位以上	
		科学力	－	4 単位以上	
		健康と体力	－	1 単位以上	
	英語科目		10 単位	－	
	その他外国語科目		－	－	
	上記で履修した科目以外		－	2 単位以上	
専門基礎科目			4 単位	10 単位以上	14 単位以上
専門科目	専門外国語科目	英語科目	4 単位	16 単位以上	28 単位以上
		中国語科目	8 単位		
	観光・地域創生系科目群		10 単位	14 単位以上	24 単位以上
	政治経済系科目群		－	8 単位以上	8 単位以上
	言語文化系科目群		－		
	学外実践科目		－	4 単位以上	4 単位以上
	演習科目		12 単位	－	12 単位
卒業要件単位数			127 単位以上		

<補足>

(ア) 共通教育科目について、「導入科目」から「その他外国語科目」の区分で修得した単位において、各区分の必要単位数を超える単位数については、「上記で履修した共通教育科目以外」の区分の必要単位数とします。

(イ) 観光・地域創生系科目群で開講される「観光社会学」「観光の新たな展開」「観光産業概論」「地域イノベーション論」「多文化共生社会論」の5科目10単位を必修科目とします。

【グローバルスタディーズコース】

科 目 区 分			卒業要件単位数		
			必修科目	選択科目	合 計
共通教育科目	導入科目		8 単位	—	37 単位以上
	一般科目	人間力	—	6 単位以上	
		社会力	—	6 単位以上	
		科学力	—	4 単位以上	
		健康と体力	—	1 単位以上	
	英語科目		10 単位	—	
	その他外国語科目		—	—	
	上記で履修した科目以外		—	2 単位以上	
専門基礎科目			4 単位	10 単位以上	14 単位以上
専門科目	専門外国語科目	英語科目	4 単位	16 単位以上	28 単位以上
		中国語科目	8 単位		
	観光・地域創生系科目群		—	8 単位以上	8 単位以上
	政治経済系科目群		4 単位	16 単位以上	24 単位以上
	言語文化系科目群		4 単位		
	学外実践科目		—	4 単位以上	4 単位以上
	演習科目		12 単位	—	12 単位
	卒業要件単位数			127 単位以上	

<補足>

- (ア) 共通教育科目について、「導入科目」から「その他外国語科目」の区分で修得した単位において、各区分の必要単位数を超える単位数については、「上記で履修した共通教育科目以外」の区分の必要単位数とします。
- (イ) 政治経済系科目群で開講される「国際政治論」「国際貿易論」及び言語文化系科目群で開講される「英語圏言語文化論」「中国言語文化論」の4科目8単位をコース必修科目とします。

Ⅲ 各学部学科における教育課程と専門教育科目
(4) 国際文化交流学部国際文化交流学科

⑦ 教育課程表

科目区分		授業科目の名称	単位数		授業形態			配当年次								卒業要件 及び 履修方法	
			必修	選択	講義	演習	実験 実習	1年次		2年次		3年次		4年次			
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
共通 教育 科目	導入 科目	キャリアデザイン・チーム論	1		○			●								8単位修得すること。	
		アカデミック・スキルズ	1		○			●									
		基礎ゼミ	2			○			●								
		情報処理基礎	2		○			●									
		南加賀の歴史と文化	2		○				●								
		小計（5科目）	8	0													
	（一般 科目）	哲学		2	○				●								6単位以上修得すること。
		心理学		2	○				●								
		人間の発達と心		2	○				●								
		日本の伝統芸能		2	○				●								
		人文地理学		2	○					●							
		文化人類学		2	○					●							
		医療と文化		2	○					●							
		文章表現法		2	○					●							
		言葉と文化		2	○					●							
	小計（9科目）	0	18														
	（社会 科目）	日本産業史		2	○				●								6単位以上修得すること。
		自然資源と環境問題		2	○				●								
		経済学		2	○				●								
		政治学		2	○					●							
		社会学		2	○					●							
		公共政策論		2	○					●							
		社会福祉論		2	○					●							
		日本国憲法		2	○					●							
	小計（8科目）	0	16														
	（科学 科目）	教養としての物理		2	○				●								4単位以上修得すること。
		教養としての数学		2	○				●								
		現代科学技術論		2	○				●								
		データ科学と社会		2	○					●							
		情報処理応用A		2	○					●							
		情報処理応用B		2	○					●							
		クリティカルシンキング		2	○					●							
		統計学		2	○					●							
	小計（8科目）	0	16														
	（健康 と体力）	健康と体の科学		2	○				●								1単位以上修得すること。
		スポーツ演習（バレーボール）		1			○		●	●							
		スポーツ演習（硬式テニス）		1			○		●								
		スポーツ演習（フットサル）		1			○		●								
		スポーツ演習（卓球）		1			○			●							
		スポーツ演習（バドミントン）		1			○		●	●							
	小計（6科目）	0	7														
	英語 科目	英語Ia		2		○			●								10単位以上修得すること。
		英語Ib		2		○			●								
		英語IIa		2		○				●							
		英語IIb		2		○				●							
		英語III		2		○				●							
実用英語A			2		○			●									
実用英語B			2		○				●								
小計（7科目）		10	4														
その他 外国 語 科目	中国語I		2	○				●								—	
	中国語II		2	○					●								
	韓国語I		2	○				●									
	韓国語II		2	○					●								
	フランス語I		2	○				●									
	フランス語II		2	○					●								
	ドイツ語I		2	○				●									
	ドイツ語II		2	○					●								
	スペイン語I		2	○				●									
	スペイン語II		2	○					●								
	小計（10科目）	0	20														
上記で履修した科目以外の共通教育科目																2単位以上修得すること。	

Ⅲ 各学部学科における教育課程と専門教育科目
(4) 国際文化交流学部国際文化交流学科

科目区分		授業科目の名称	単位数		授業形態			配当年次								卒業要件 及び 履修方法	
			必修	選択	講義	演習	実験 実習	1年次		2年次		3年次		4年次			
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門 基礎 科目		国際地域研究入門	2		○			●								必修4単位、 選択10単位以上 を修得すること。	
		世界遺産を学ぶ		2	○				●								
		日本を知る－文化・社会・歴史の 観点からA		2	○			●									
		日本を知る－文化・社会・歴史の 観点からB		2	○				●								
		観光学概論		2	○					●							
		地域政策概論		2	○					●							
		グローバルヒストリー		2	○					●							
		アジア社会論		2	○					●							
		日本文化論		2	○					●							
		言語学概論		2	○					●							
	異文化コミュニケーション論	2		○					●								
		小計（11科目）	4	18													
専門 外国 語 科目	英語 科目	English comprehension I a	2			○				●						必修12単位、 選択16単位以上 を修得すること。	
		English comprehension I b		2		○				●							
		English comprehension II		2		○					●						
		English comprehension III		2		○						●					
		English expression I	2			○				●							
		English expression II a		2		○					●						
		English expression II b		2		○					●						
		English expression III		2		○						●					
		Tourism English I		2		○					●						
		Tourism English II		2		○						●					
		English presentation A		2		○							●				
		English presentation B		2		○							●				
				小計（12科目）	4	20											
	中国 語 科目	中国語 I a		2			○		●								
		中国語 I b		2			○		●								
		中国語 II a		2			○			●							
		中国語 II b		2			○			●							
		中国語 III a			2		○				●						
		中国語 III b			2		○				●						
		中国語 IV a			2		○					●					
		中国語 IV b			2		○					●					
		中国語理解 I			2		○						●				
		中国語理解 II			2		○							●			
		中国語表現法			2		○							●			
		中国語会話			2		○							●			
		ビジネス中国語			2		○							●			
		小計（13科目）	8	18													
観光・ 地域 創 生 系 科目 群	観光の新たな展開		2	○						●					#	（観）24単位以 上修得するこ と。ただし、#は コース必修科目 とする。 （グ）8単位以上 修得すること。	
	観光産業概論		2	○						●					#		
	地域イノベーション論		2	○						●					#		
	観光社会学		2	○						●					#		
	地域資源と観光		2	○							●						
	観光マーケティング論		2	○							●						
	インバウンド観光論		2	○							●						
	ホスピタリティ論		2	○							●						
	地域観光ビジネス論		2	○							●						
	ユニバーサルツーリズム論		2	○								●					
	環境と観光		2	○								●					
	観光文化論		2	○								●					
	多文化共生社会論		2	○						●			●		#		
	地域文化政策論		2	○							●						
	地域ビジネス創造論		2	○								●					
	社会調査法		2	○								●					
		小計（16科目）	0	32													

(観) = 国際観光・地域創生コース

(グ) = グローバルスタディーズコース

Ⅲ 各学部学科における教育課程と専門教育科目
(4) 国際文化交流学部国際文化交流学科

科目区分		授業科目の名称	単位数		授業形態			配当年次								卒業要件 及び 履修方法	
			必修	選択	講義	演習	実験 実習	1年次		2年次		3年次		4年次			
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目	政治 経済 系 科 目 群	国際政治論		2	○							●					☆
		国際貿易論		2	○							●					☆
		中国語圏社会文化論		2	○							●					
		アジア現代史概論		2	○							●					
		東南アジア地域社会論		2	○								●				
		国際開発論		2	○									●			
		国際コミュニティ論		2	○								●				
		イスラーム社会論		2	○								●				
		中東政治論		2	○									●			
		資源エネルギー・環境論		2	○								●				
		新興国経済論		2	○									●			
		グローバル論		2	○								●				
		現代日本論		2	○									●			
		宗教社会論		2	○								●				
		メディア社会論		2	○									●			
		日本社会論		2	○								●				
	小計（16科目）		0	32													
	言語 文化 系 科 目 群	英語圏言語文化論		2	○							●					☆
		中国言語文化論		2	○							●					☆
		英語圏表象文化論		2	○							●					
		英語研究 A		2	○								●				
		英語研究 B		2	○									●			
		中国語研究 A		2	○								●				
		中国語研究 B		2	○									●			
		社会言語学		2	○								●				
		日本語の歴史		2	○								●				
		語用論		2	○								●				
		日英対照言語表現論		2	○									●			
		比較文学論		2	○									●			
		日本古典読解		2	○									●			
		異文化間心理学		2	○								●				
	小計（14科目）		0	28													
	学外 実 践 科 目	インターンシップⅠ		2					○					●	●		
		インターンシップⅡ		2					○						●	●	
		学外PBL研修		2					○				●	●			
		異文化体験実習		4					○				●	●			
		海外語学研修		4					○				●	●			
		地域実習		2					○					●	●		
		海外修得科目(言語系) A		2					○				●	●			
		海外修得科目(言語系) B		2					○				●	●			
		海外修得科目(社会・文化系) A		2					○				●	●			
		海外修得科目(社会・文化系) B		2					○				●	●			
	小計（10科目）		0	24													
	科 演 目 習	演習 A		2									●				
		演習 B		2										●			
		卒業研究		8											●		
小計（3科目）		12	0														
合計（148科目）		46	253													卒業要件 合計 127単位以上	
学位または称号		学士（国際文化学）															

(観) = 国際観光・地域創生コース
(グ) = グローバルスタディーズコース

